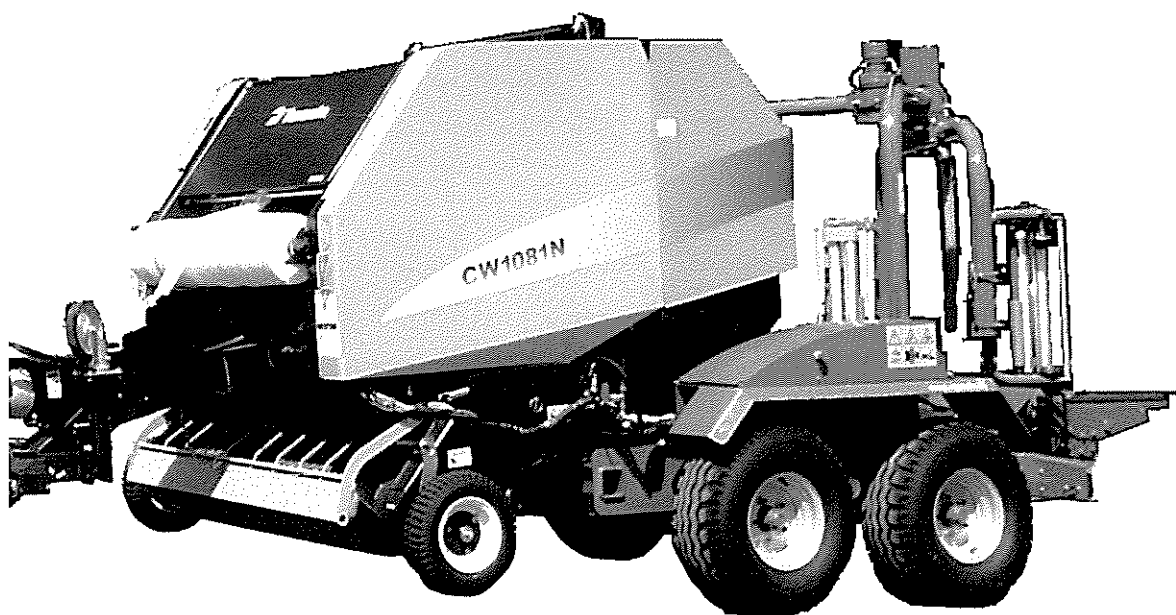


取扱説明書及び部品表



中型コンビラップマシーン

CW1081N



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**中型コンビラップマシーン**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくと、お得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れており、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
--	---

本製品の使用目的とサービスについて	11
-----------------------------	----

1. 各部	12
2. モータ、センサ類	13
3. トラクタ側コントロールボックス	14
4. 本体側コントロールボックス	15
5. 付属品	16

各部の名称とはたらき	12
----------------------	----

トラクタへの装着	18
--------------------	----

1. 装着のしかた	18
2. ユニバーサルジョイントの取付け	18
3. コントロールボックスの接続	20
4. バックモニターの接続	21

運転に必要な装置の取扱い	23
------------------------	----

1. コントロールボックスの取扱い	25
2. シリンダーストッパーの取扱い	25
3. ネットの取付け	26
4. 自動注油装置の取扱い	26
5. 油圧装置の取扱い	27
6. 安全装置の取扱い	27
7. ピックアップ装置の取扱い	28
8. 切断装置の取扱い	29
9. 底板ダウン装置の取扱い	30
10. ナイフの交換	30
11. フィルムの装着のしかた	30
12. 梱包密度の設定	32
13. 緊急停止スイッチ	32

作業の方法	33
-----------------	----

1. 作業前準備の流れ	33
2. 作業の流れ	34
3. 作業再開の流れ	35
4. 作業後の流れ	36
5. 拾い上げ方法	37
6. 作業速度について	37
7. コーナーでの走り方	37
8. 傾斜地での作業	37

作業前の点検について	38
点検一覧表	38
簡単な手入れと処置	39
1. チェーン張り調整	39
2. 切断ナイフの手入れ	39
3. タイヤの点検	39
4. 各部の注油・グリスアップ	40
5. 長期格納時の手入れ	42
6. センサ類の調整	42
不 調 診 断	45
付 表	49
1. 主要諸元	49
2. 油圧回路	50
3. 配線図	51

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

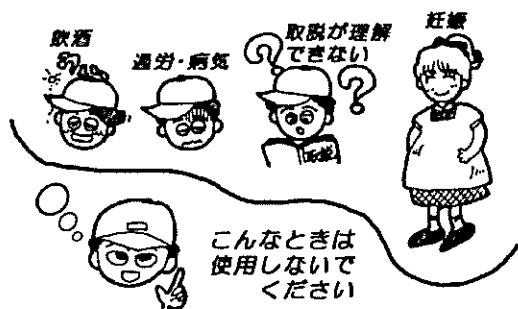
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

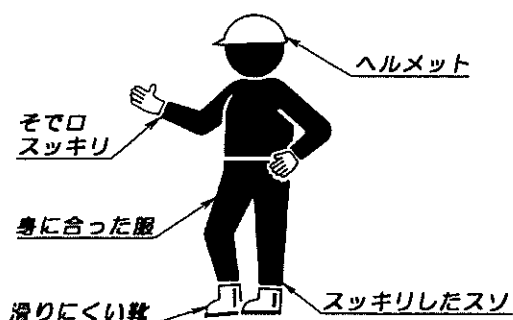
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力

型 式	馬 力 kW (P S)
CW1081N	44.1~73.6(60~100)

● ロワーリンク規格：カテゴリⅠ・Ⅱ

● PTO回転速度： 450~540 min⁻¹(rpm)

● 電源用バッテリー：DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着（連結）した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着（連結）しないでください。

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

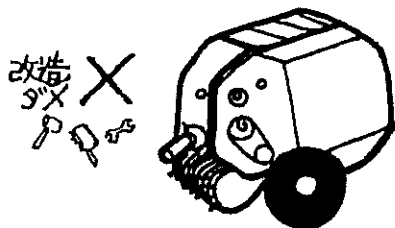


安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は稲ワラ、牧草、麦稈等をロール成形する作業を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

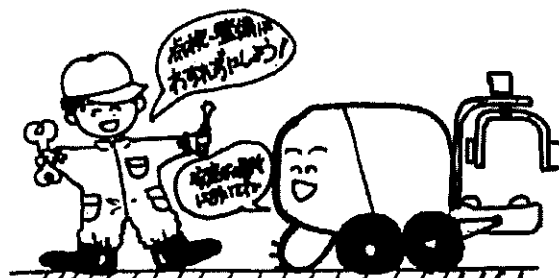


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



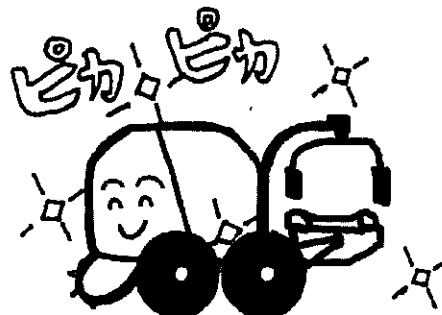
(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。





安全に作業するために

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

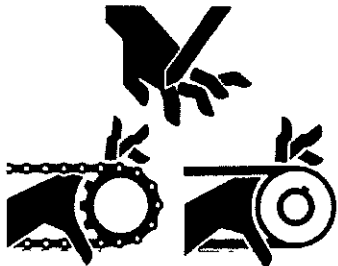
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

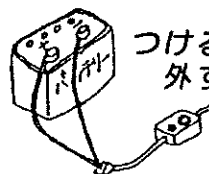


また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

(9) コントロールボックスの電源脱・着はトラクタのバッテリーより電源を取り出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。

外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



つける時は (+) 側から
外す時は (-) 側から



(10) タイヤの点検・修理をするときは

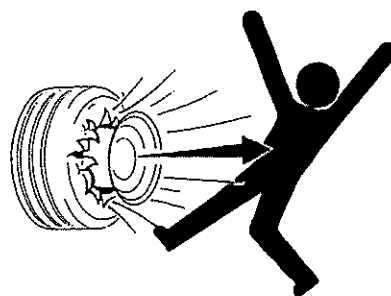
①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。





安全に作業するために

(1) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

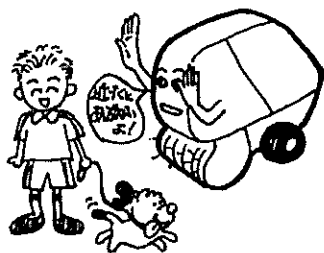
コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

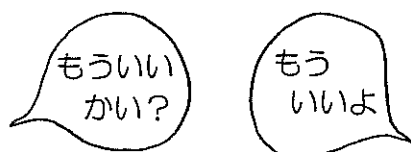


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エン진을始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

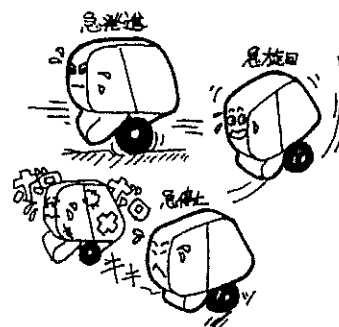
安全確認



(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

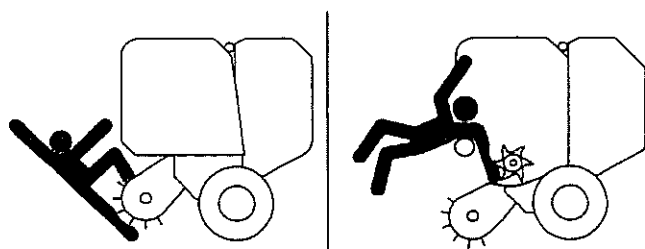
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



(6) 回転中のピックアップドラムやタイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



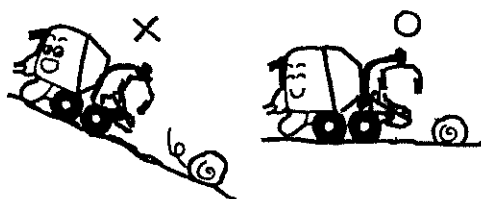


安全に作業するために

(7) 傾斜地で作業するときは

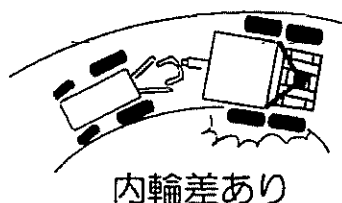
次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。
- ② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
守らないと、転倒する危険があります。
- ③ 傾斜地でのボール放出は、谷側にボールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



(8) 移動及び作業の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



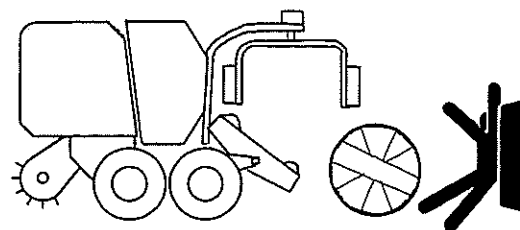
(9) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

P T Oを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



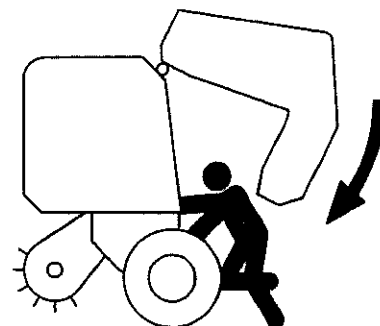
(10) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



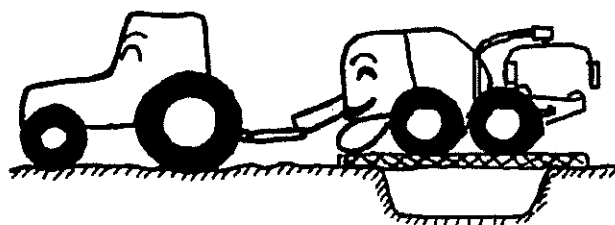
(11) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダーストッパーを必ず左右共にセットしてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

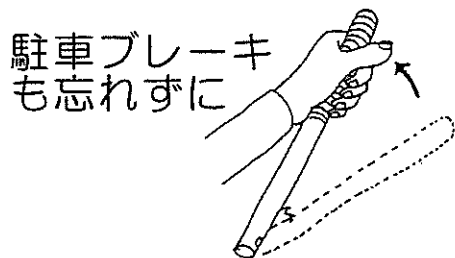
スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。





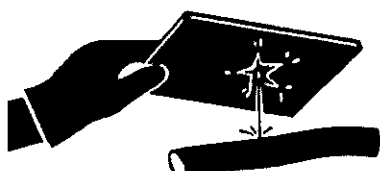
安全に作業するために

- (13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停止し、P T O を切りエンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

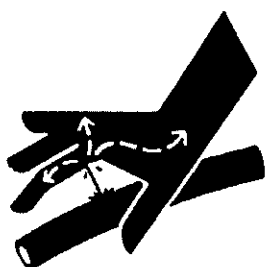


- (14) 高圧油に注意してください

- ① 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ② 高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③ 圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



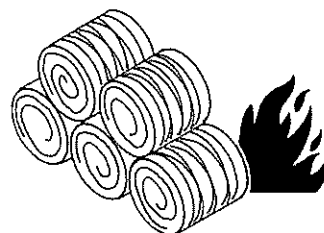
- ⑤ 万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



- (15) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をロールベールに成形すると、ロールベール内部からの発火により火災が発生する危険があります。

ロールベール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



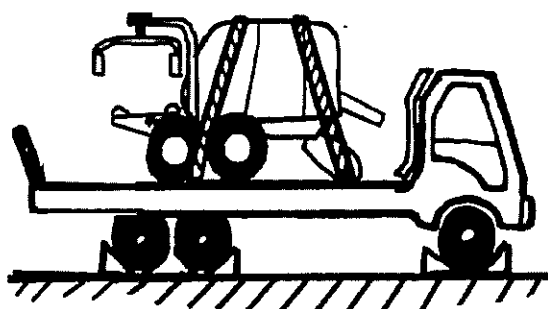
4. 道路走行・輸送するときは

- (1) トラクタに装着しての公道走行禁止

トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに装着しての走行はしないでください。

- (2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。

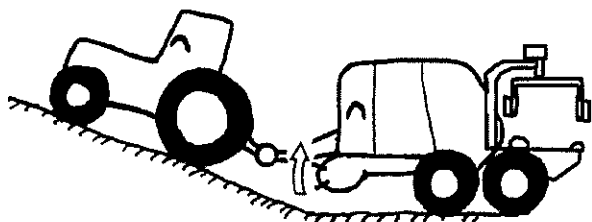




安全に作業するために

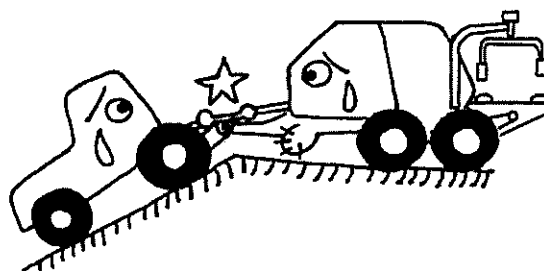
(3) ピックアップを移動位置にする

特にほ場から出入りの場合、ピックアップの破損事故が起こりやすいので、コントロールボックスを操作し、ピックアップを上げてください。



(4) ロワーリンクを上げた時はVヒッチとジョイントが当たらない事を確認してください。

- ① ロワーリンクを上げ過ぎないでください。
- ② ロワーリンクを上げたままほ場の出入りを行う際、トラクタとロールベアラの姿勢が変化してVヒッチとジョイントが近接し、ぶつかる恐れがある為注意してください。

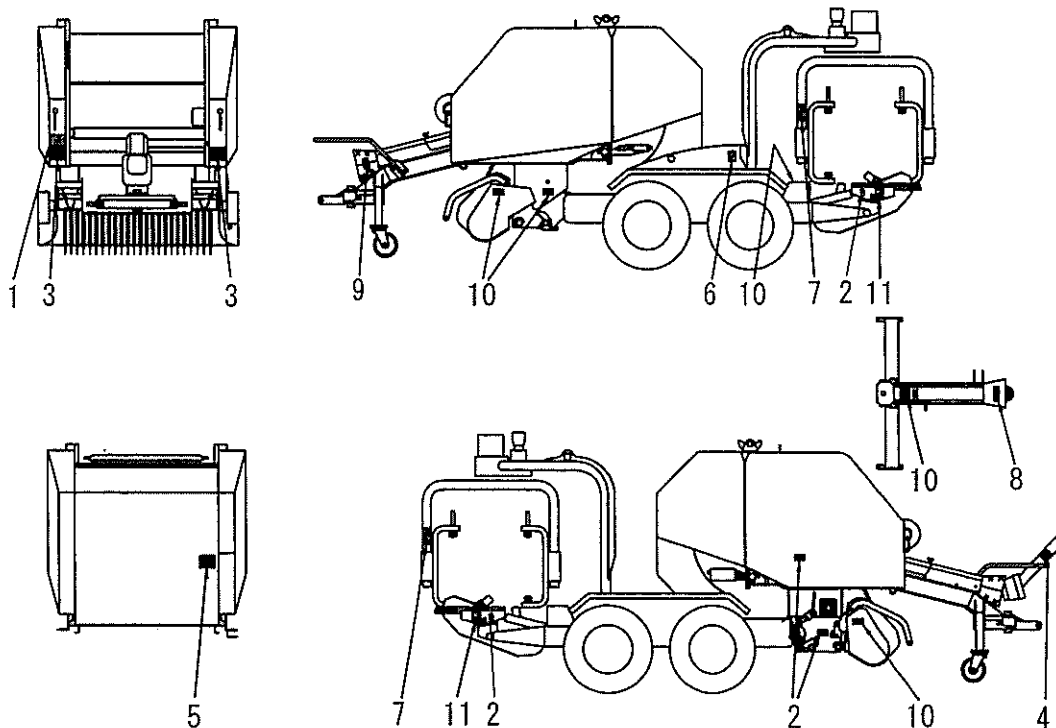


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

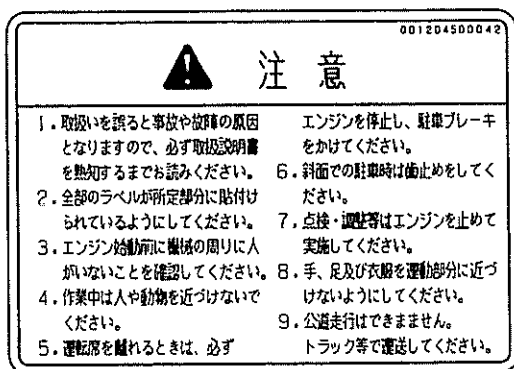


安全に作業するために

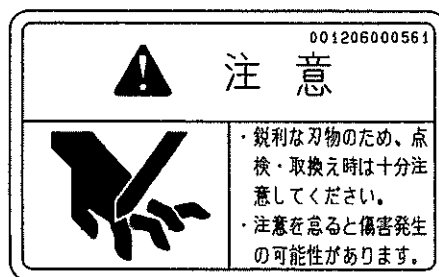
5. 警告ラベルの貼付け位置



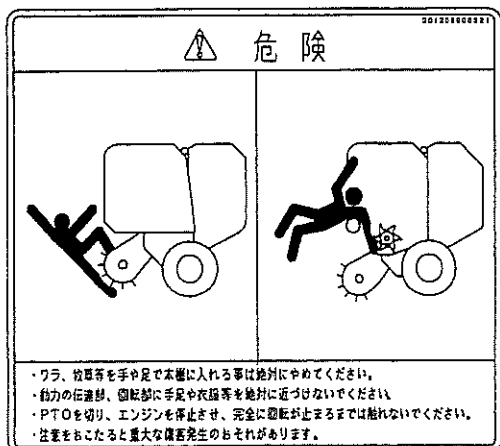
①部品コード 001204500042



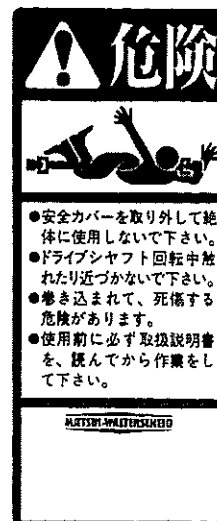
②部品コード 001206000561



③部品コード 001206000180



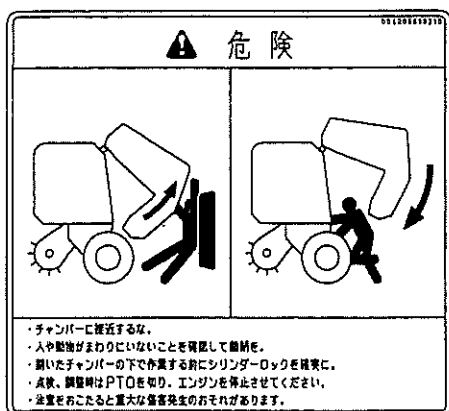
④部品コード 001306951010



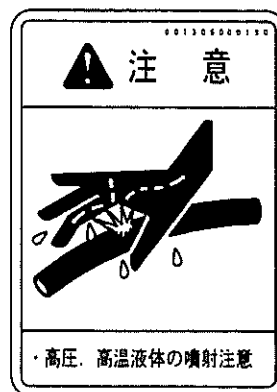


安全に作業するために

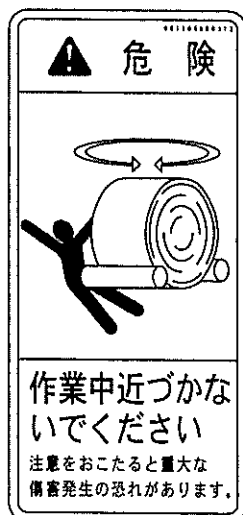
⑤部品コード 001206000310



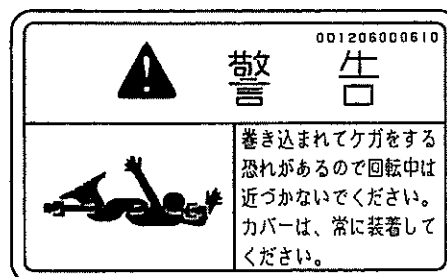
⑥部品コード 001306000190



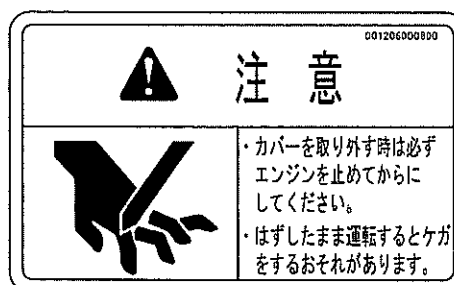
⑦部品コード 001206000372



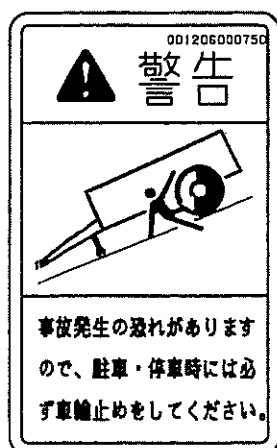
⑧部品コード 001206000610



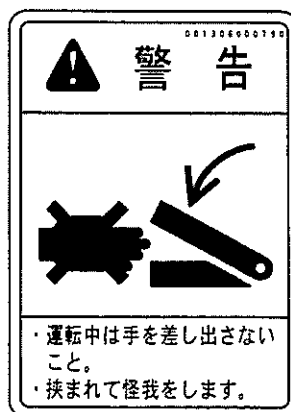
⑩部品コード 001206000800



⑨部品コード 001206000750



⑪部品コード 001306000790





安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、牧草、麦稈等をロール梱包する作業にご使用ください。

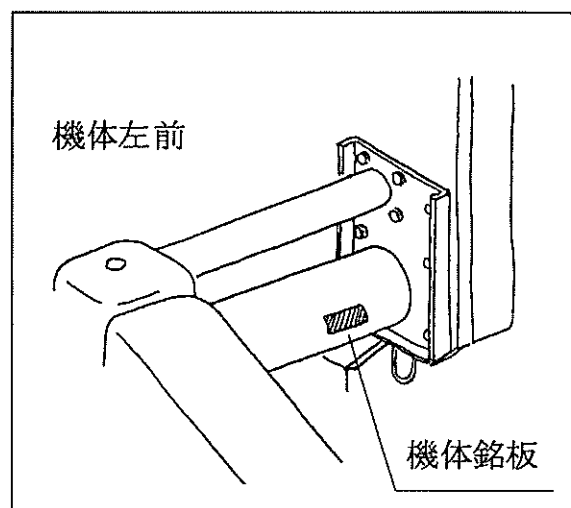
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

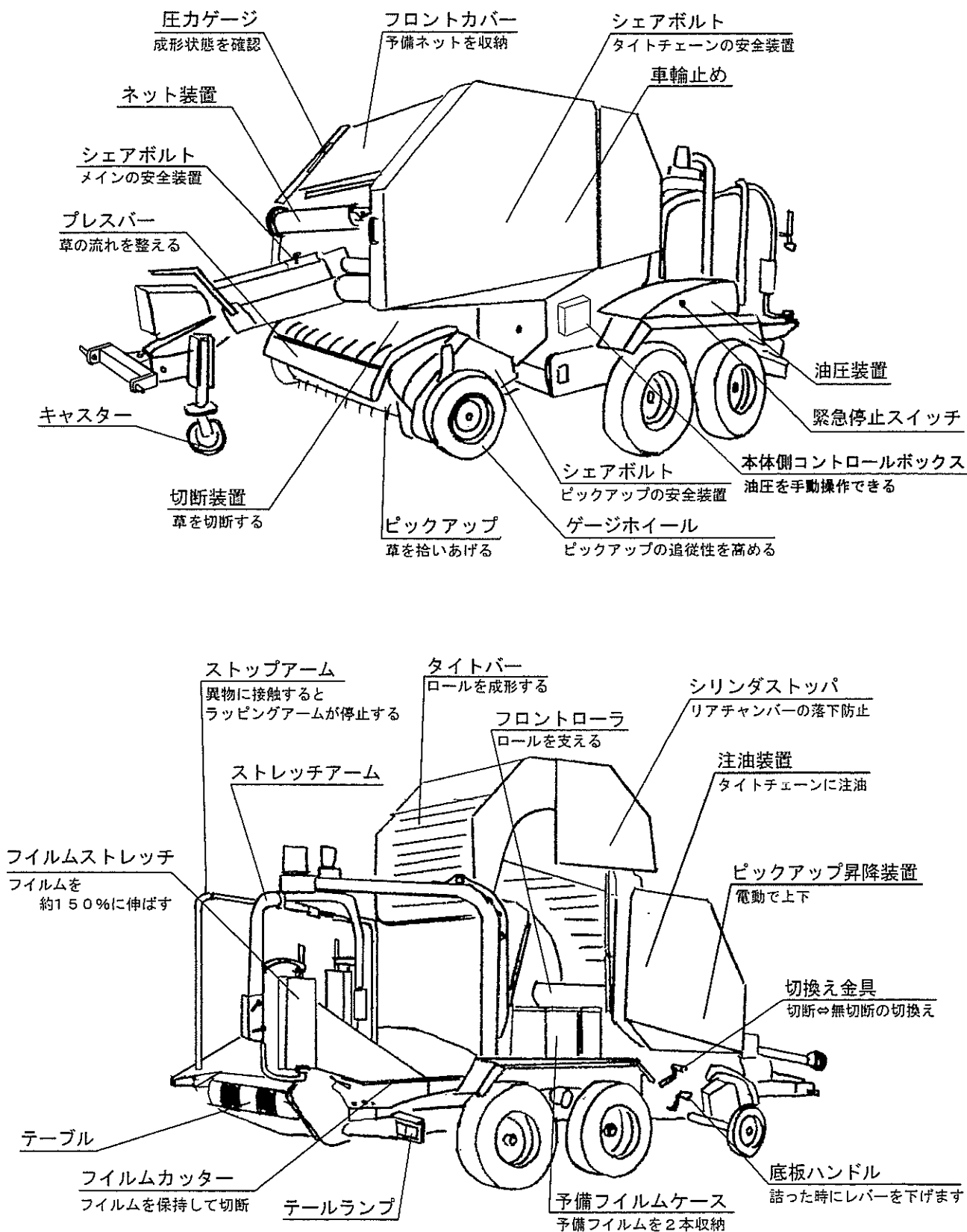
※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	中型コンビラップマシーン		
型 式	CW1081N		
機 体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

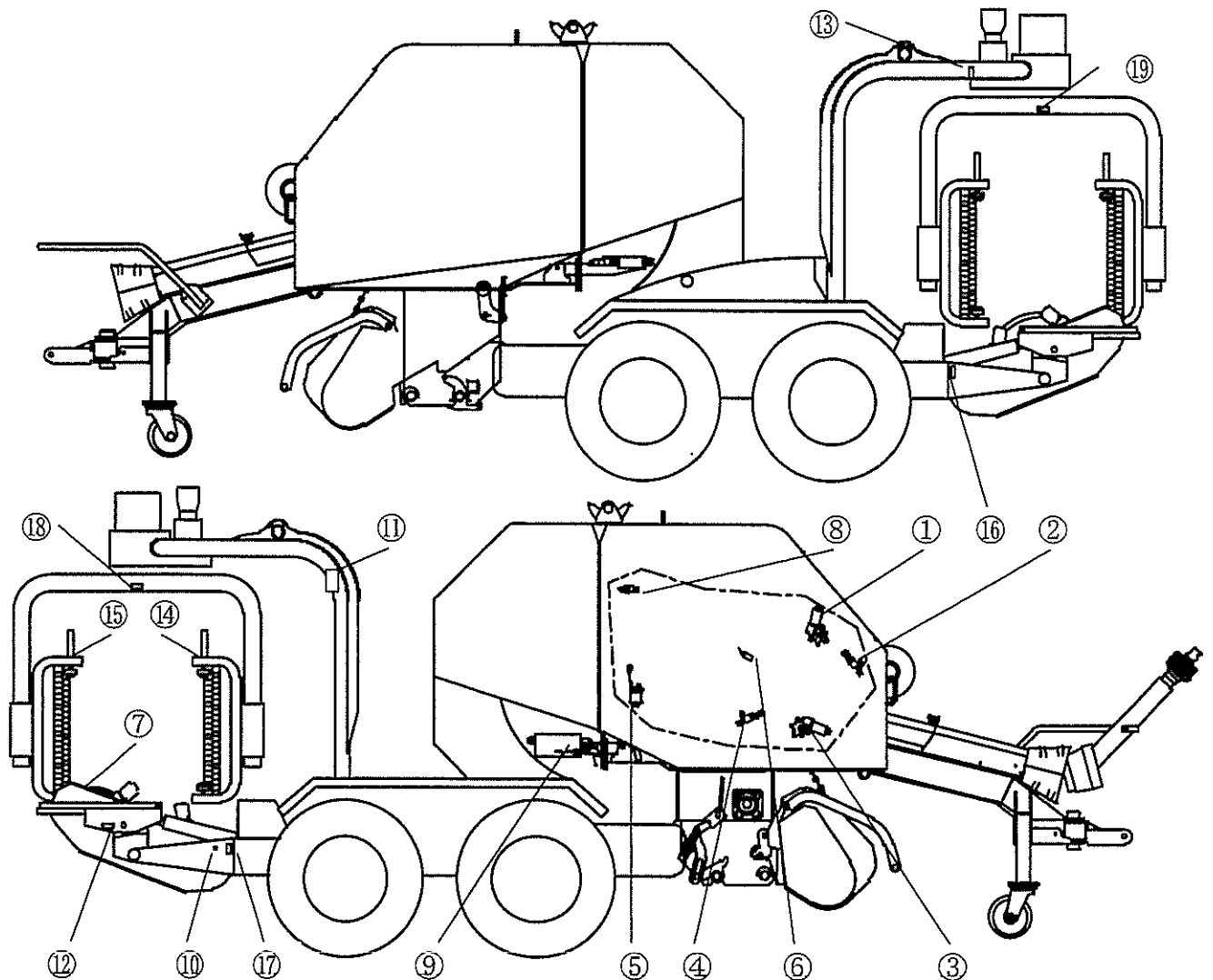
各部の名称とはたらき

1. 各部



各部の名称とはたらき

2. モーター、センサ類



No.	名称	用途
①	ネット繰出しモータ	・ ネットを繰り出します。
②	カムセンサ	・ カムの初期位置を検出します。
③	ピックアップモータ	・ ピックアップを上下させます。
④	タイマーナイフセンサ	・ タイマーナイフが落ちたことを検出します。
⑤	注油ポンプ	・ タイトチェンに注油します。
⑥	PTO センサ	・ PTO 回転数を検出します。
⑦	ロール検出センサ	・ ラップマシーンにロールが載ったことを検出します。
⑧	チャンバー閉センサ	・ チャンバーが閉まったことを検出します。
⑨	満了感知センサ	・ チャンバー内が満了になったことを検出します。
⑩	コンベアセンサ	・ コンベアの送りを検出します。
⑪	バックカメラ	・ ラップマシンの状態をバックモニターに表示します。
⑫	テーブル中間センサ	・ テーブルが作業位置にあることを検出します。
⑬	ストレッチアーム 初期位置センサ	・ ストレッチアームが初期位置にあることを検出します。 ・ ストレッチアームの回転をカウントします。

各部の名称とはたらき

⑭	フィルム切れ1センサ	・フィルムが無くなったことを検出します。
⑮	フィルム切れ2センサ	
⑯	テールランプセット左	・左右ウインカー、ブレーキランプ、車幅灯
⑰	テールランプセット右	
⑱	ストレッチアーム ストップ1センサ	・ストレッチアームに異物がぶつかったことを検出し、 ストレッチアームを一時停止させます。
⑲	ストレッチアーム ストップ2センサ	

3. トラクタ側コントロールボックス

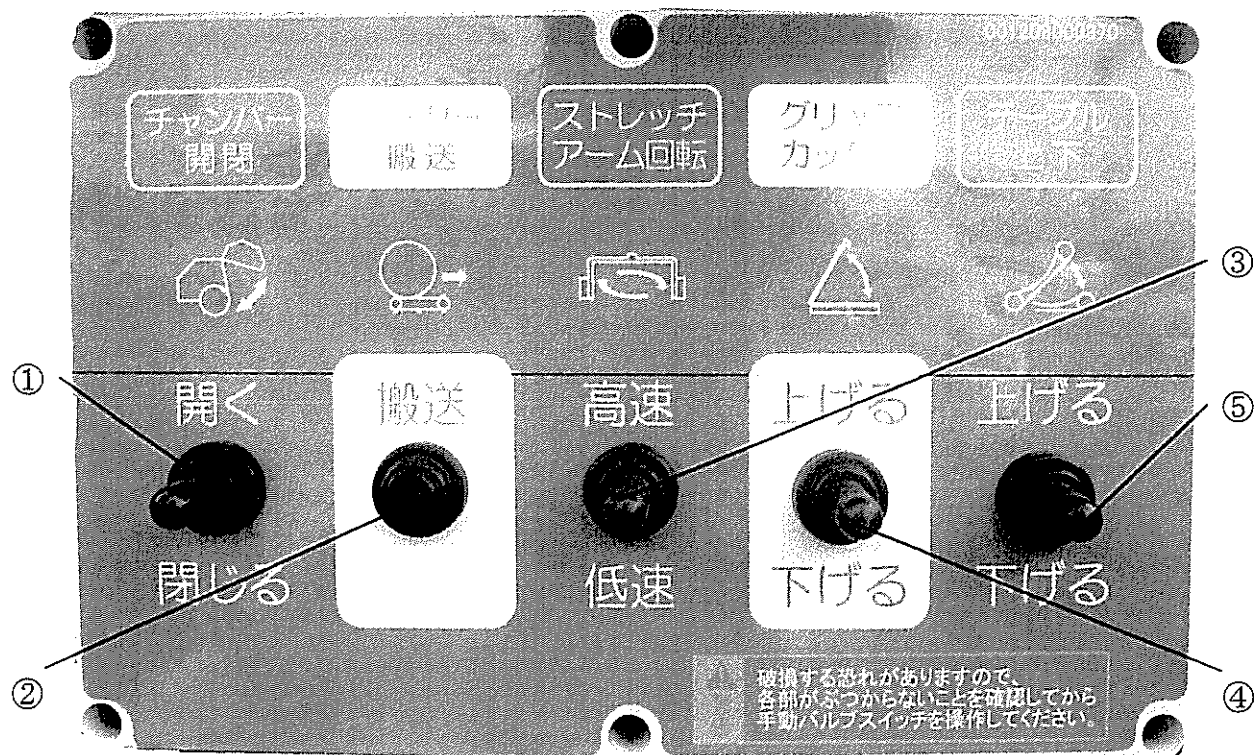


No.	名称	用途
①	非常停止/電源	・電源を入/切します。 ・緊急に電気制御を停止したいときに押します。
②	切換スイッチ	・「センサチェック」「通常作業」「作業設定」モードを切換ます。 ※満了感知できませんので、作業時は「通常作業」にしてください。
③	累積クリア	・累積個数を0にします。
④	液晶	・作業状態やエラー内容を表示します。
⑤	ピック	・ピックの上下を行います。
⑥	ネット繰出し 注油	・ネットの繰出しを行います。 ・押している間、タイトチェンに注油します。 作業中はタイトチェンに自動注油します。

各部の名称とはたらき

⑦	チャンバー	・チャンバーの開閉をします。 ※閉じるとき、チャンバーロックを確実にするため、チャンバーが閉じた後、もう一度「チャンバー閉じる」を押してください。
⑧	グリップカッタ ストレッチアーム	・グリップカッタを閉じます。 ・ストレッチアームを初期位置に移動します。
⑨	テーブル	・テーブルを持ち上げます。 ・「中間」はテーブルをラッピング姿勢にします。
⑩	自動放出	・ラッピング後に自動放出するか設定します。
⑪	放出	・ロールを放出します。
⑫	コンベア	・押している間、コンベアが動きます。
⑬	ラップ開始	・押すとラッピングを開始します。
⑭	一時停止/解除	・一時的に停止したいときに押します。 ・エラーになった場合、液晶に一時停止の理由と「イジティシ」と表示されますので、トラクタを停止してエラー原因を取り除いてから、押して一時停止を解除してください。

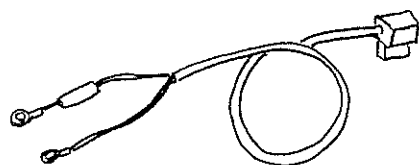
4. 本体側コントロールボックス



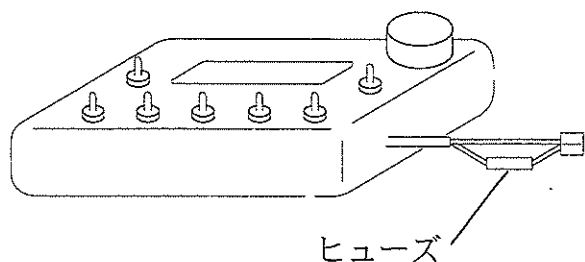
No.	名称	用途
①	チャンバー開閉	・チャンバーが開・閉します。
②	ローダー搬送	・コンベアが動きます。
③	ストレッチアーム回転	・ストレッチアームが高速・低速回転します。
④	グリップカッタ上下	・グリップカッタが上下します。
⑤	テーブル上下	・テーブルが上下します。

各部の名称とはたらき

5. 付 属 品



コントロールボックス用電源コード (太)
バッテリーより電源を取り出します。
12V専用。30Aヒューズ付。



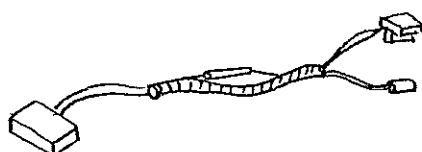
コントロールボックス
成形感知、チャンバー開閉などの動作を手元で行います。20Aヒューズ付。



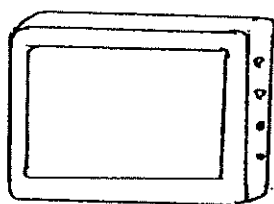
コントロールボックスベース
コントロールボックスをボルトや吸盤でキャビン内に固定します。



モニター用電源コード (細)
バッテリーよりモニターの電源を取り出します。30Aヒューズ付。



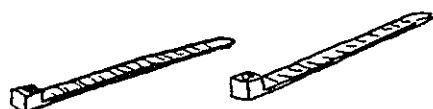
モニターケーブル
モニターと電源・カメラを接続するケーブルです。3Aヒューズ付。



モニター
機体後方及びラップマシンの作業状態を確認するのに使います。



取り付け台
モニターを取り付けるために使用します。



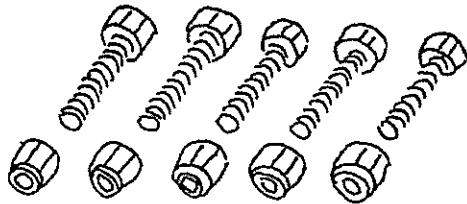
リピートタイ
ロールベアラ側からの配線を固定します。

各部の名称とはたらき



I・II兼用カラー

カテゴリIIのトラクタの場合、ローワーリンクピンに入れて使用します。

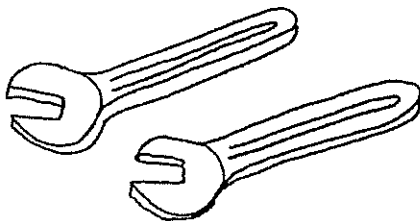


ロールベアラシェアボルトセット

- ・M8×30(8T全ネジ)と
M8タフロックナットが10セット。
- ・M8×40(8T半ネジ生地)と
M8フニロンが10セット。



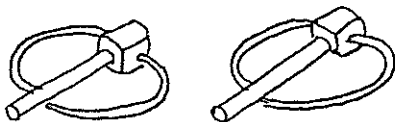
逆転ハンドル 1本



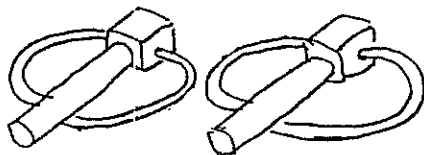
スパナ 2本



Rピン 8 3本



リンチピン 6 2ケ



リンチピン10 2ケ



オイルサシ 1ケ

トラクタへの装着

⚠ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、P T Oを切ってから確実に接続をしてください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります

1. 装着のしかた

◆装着順序

左ロワーリンク、右ロワーリンクの順序で取付けてください。

カテゴリⅡのトラクタには付属のⅠ・Ⅱ兼用カラーを取付けてください。



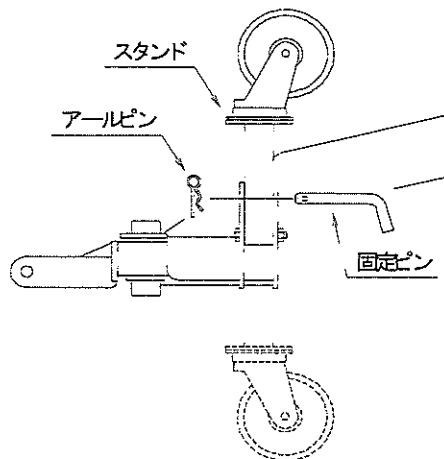
Ⅰ・Ⅱ兼用カラーを

◆チェックチェンで横振れ調整

運転時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェンでトラクタ中心にロワーリンクが左右に2～3 cm程度の振れになるよう、調整してください。

◆スタンドを上げる

ロワーリンクでヒッチを少し上げてからスタンドを上げてください。



2. ユニバーサルジョイントの取付け

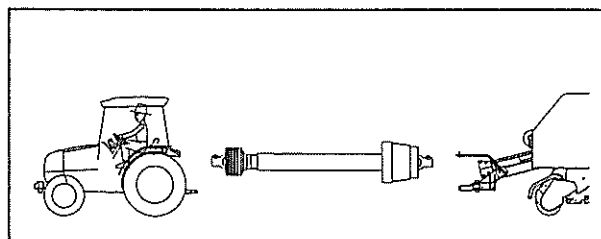
◆取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタ P T O軸に確実に取付けてください。

注意

本機側は広角ジョイント付です。

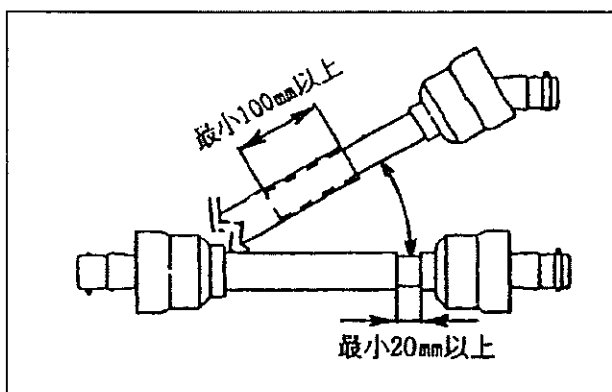
逆に取付けるとジョイントが破損する恐れがあります。



◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さはロワーリンクによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。

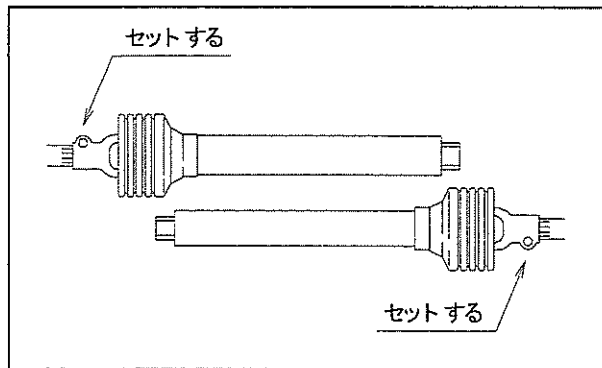
長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



トラクタへの装着

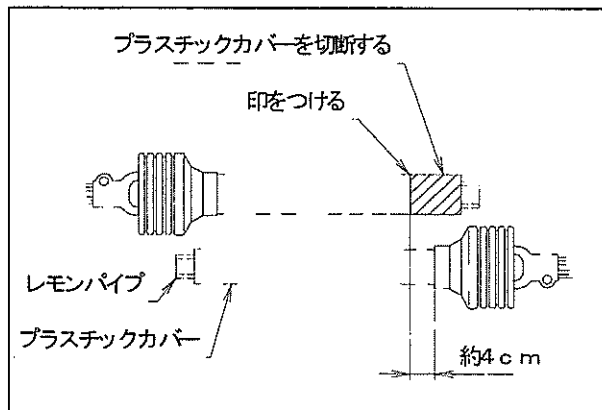
◆ユニバーサルジョイントの切断方法

- ①ユニバーサルジョイントの半づつをトラクタと作業機にセットします。

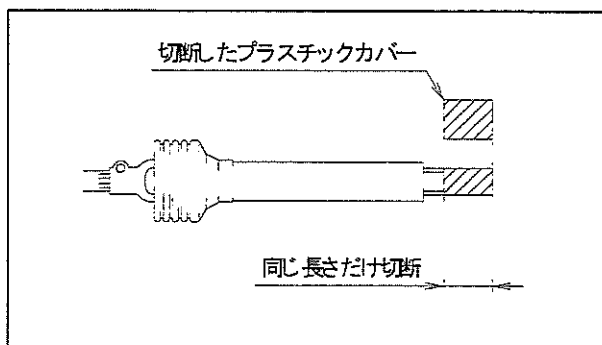


- ②ロワーリンクを上下して一番短くなる場所で互いに合わせます。

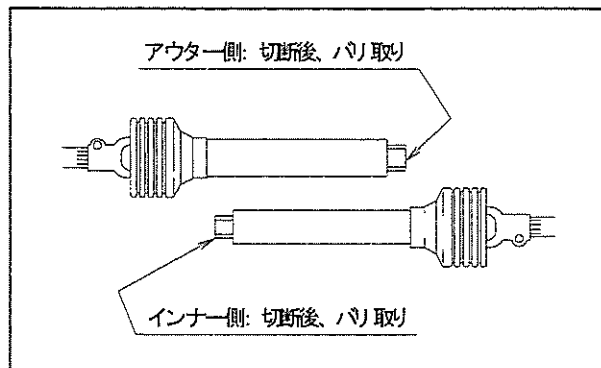
- ③プラスチックカバーの重なりより約4 cm内側に印をつけ、ユニバーサルジョイントを外します。



- ④印をつけたところからプラスチックカバーを切断します。
切断したプラスチックカバーと同じ長さだけ、もう一方のプラスチックカバーとレモンパイプの OUTER、INNER をそれぞれ切断してください。



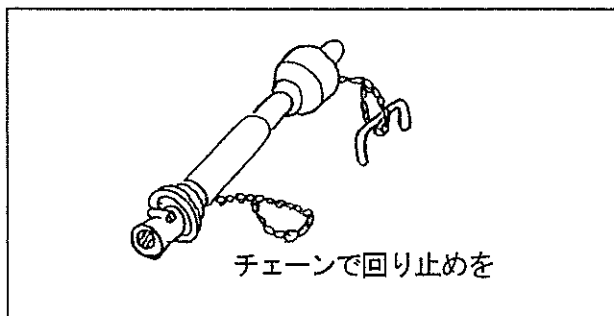
- ⑤アウター、インナー両方ともバリ取りを行い切り粉を掃除した後、スムーズにスライドすることを確認してください。



- ⑥インナーの外側にグリスを塗って再度組んでください

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



トラクタへの装着

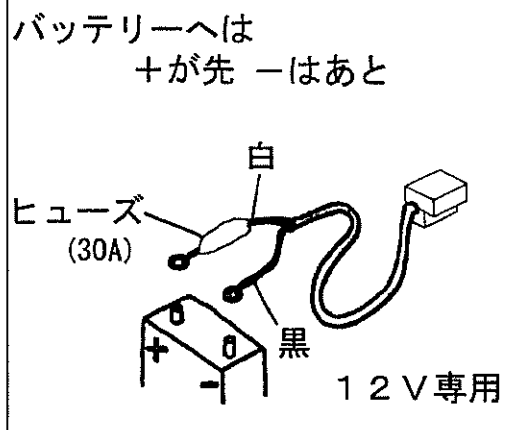
3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから取出します。

◆接続できるバッテリーの電圧は12Vです。

24Vのバッテリーに接続しないでください。

間違って接続すると、コントロールボックス内部及び電気系統が破損する恐れがあります。



◆ (+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの液晶は表示されません。

警告

接続の順序は、(+) 側から行ってください。

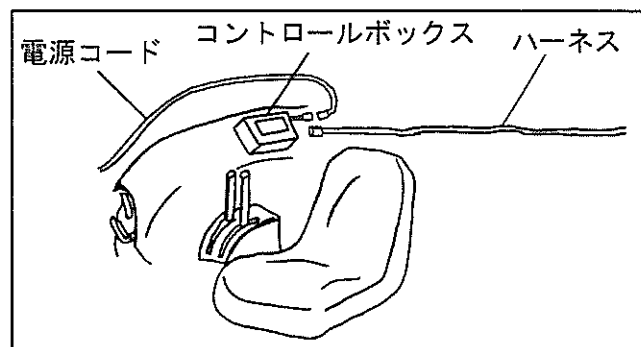
また、取外すときは、(-) 側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石、コントロールボックスベースには穴や吸盤が装着してあります。

操作のし易いように、トラクタの運転席右側に取付けてください。



◆配線の接続

電源コード (太) とベアラからのハーネスをコントロールボックスに接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

◆バッテリーの容量チェック

トラクタのエンジンをかけて、エンジン回転数を上げてください。

コントロールボックスの電源を入れるとバッテリーの容量チェックを行います。エラーが表示された場合、トラクタの取扱説明書に従ってバッテリーを充電または交換をしてください。

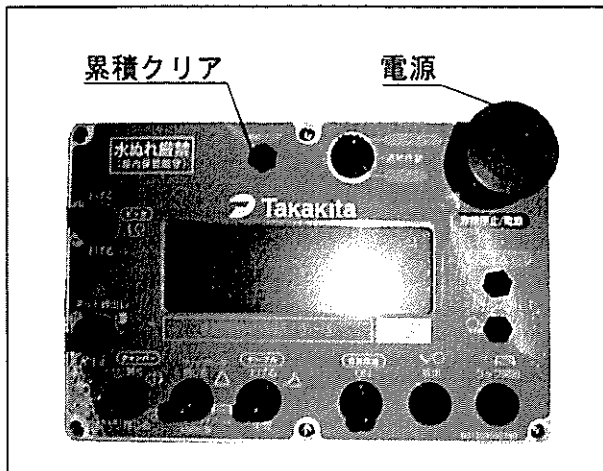
再度、コントロールボックスの電源を入れることでバッテリーの容量チェックを行うことができます。

また、「個数クリア」スイッチを押しながらコントロールボックスの電源を入れるとバッテリーの容量チェックを行いません。

トラクタへの装着

⚠ 注意

バッテリーの容量が不足すると正常な動作ができなくなりますので、エラーが表示された場合はバッテリーの充電・交換をしてください。



●液晶が表示されないときは、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの(+)と(-)が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

◆作業終了後は取外して屋内に保管
作業終了後は、電源コード側のコネクタ、ベアラからのハーネスを切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

4. バックモニターの接続

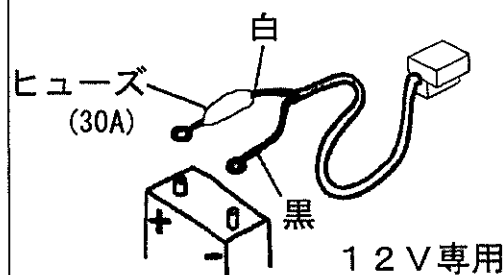
◆電源はトラクタのバッテリーから取ります。

◆接続できるバッテリーの電圧は12Vです。

24Vのバッテリーに接続しないでください。

間違って接続すると、モニター内部及び電気系統が破損する恐れがあります。

バッテリーへは
+が先 -はあと



◆(+)、(-)の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの(+)へ接続
黒色線はバッテリーの(-)へ接続

注意

(+)、(-)の接続を間違えると、モニター表示されません。

⚠ 警告

接続の順序は、(+)側から行ってください。

また、取外すときは、(-)側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆バックモニターの取付け

付属の取り付け台の取扱説明書を参考に、運転に支障がでず見やすい位置に確実に取り付けてください。

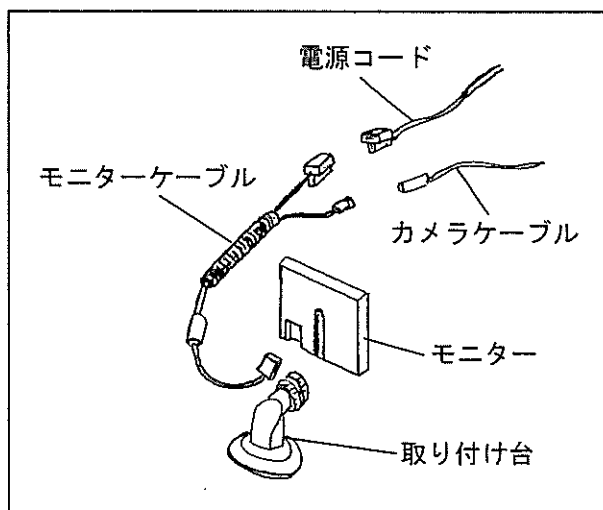
トラクタへの装着

- 取り付け台の吸盤にはカバーが貼ってあります。使用する際はカバーを外してください。また、使用後はカバーを取り付けて吸着力が下がらないようにしてください。

◆配線の接続

ベアラからのハーネスと電源コード（細）をモニターのハーネスにそれぞれ接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。



運転に必要な装置の取扱い

1. コントロールボックスの取扱い

・作業設定の変更方法

1. コントロールボックスを接続します。
2. コントロールボックス「累積クリア」を押しながら電源を入れます。
3. グリップカッタを閉じてくださいと表示が出たら、「累積クリア」を押すのをやめて、「グリップカッタ閉じる」を押してください。
4. テーブルを上げてくださいと表示が出たら、「テーブル上げる」を押してください。
5. コントロールボックスの「切換スイッチ」を「作業設定」にしてください。
6. 以下のスイッチを使い必要な項目の設定値を変更してください。

なお、トラブルの原因になりますので、No.1 以外の項目を変更する場合は販売店にご相談ください。

※作業ができないので、設定が終わったら必ずコントロールボックスの「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。

- ・「ピックアップ上げる」：設定値+1
- ・「ピックアップ下げる」：設定値-1(No.2~11 までは使用しません)
- ・「ネット繰出し」：次の項目へ移る
- ・「注油」：前の項目へ戻る

No.	表示	初期値（設定範囲）	内容
1	ラップ 4 ソウマキ：9 カイ 6 ソウマキ：13 カイ ルイセキ	9 (0,8~48)	ラップフィルムの巻数を設定 ※0 にするとラップせずに 放出します。 累積個数を表示します。
2	フィルム ギレ	1(1：アリ,0：ナシ)	ラップフィルムが無くなったとき、 自動で停止するか設定
3	ラップタイム アウト	20Sec (5~30)	センサが反応しないとき、エラー 状態になるまで時間を設定
4	フィルムハナシ アゲ	200 mSec (100~1000)	ラップフィルムを抜く際、グリップ カッタが上がる時間を設定
5	フィルムハナシ サゲ	600 mSec (100~1000)	ラップフィルムを抜く際、グリップ カッタが下がる時間を設定
6	グリップカッタ アゲチエン	100 mSec (100~1000)	フィルム巻き終了後、グリップ カッタを上げるまでの時間
7	グリップカッタ サゲ	3 Sec (1~10)	ラップフィルムを挟む際、グリップ カッタを下げる時間
8	テーブル アゲ	5 Sec (1~10)	ロール放出後、テーブルを上げる 時間

運転に必要な装置の取扱い

9	テーブル マチ	1 Sec (1~10)	ロール放出時、テーブルが下がった 位置で保持する時間
10	テーブル サゲ	3 Sec (1~10)	ロール放出時、テーブルが下がる 時間
11	チャンバー カイ	5500 mSec (100 ~ 10000)	チャンバーを上げる時間

・センサチェックの方法

1. コントロールボックスを接続します。
2. コントロールボックス「累積クリア」を押しながらの電源を入れます。
3. グリップカッタを閉じてくださいと表示が出たら、「累積クリア」を押すのをやめて、「グリップカッタ閉じる」を押してください。
4. テーブルを上げてくださいと表示が出たら、「テーブル上げる」を押してください。
5. コントロールボックスの「切換スイッチ」を「センサチェック」にしてください。
6. 以下のスイッチを使い必要な項目の設定値を変更してください。

※作業ができないので、設定が終わったら必ずコントロールボックスの
「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。

・「ネット繰出し」：次の項目へ移る

・「注油」：前の項目へ戻る

No.	名称	
1	マンリョウ チャンバ セツダン カム SW	満了センサの状態を表示します。 チャンバ閉センサの状態を表示します。 セツダンナイフセンサの状態を表示します。 カムセンサの状態を表示します。
2	ストレッチ フィルム R フィルム L アーム SW	ストレッチアーム初期位置センサの状態を表示します。 フィルム切れ右センサの状態を表示します。 フィルム切れ左センサの状態を表示します。 ストレッチアームの緊急停止センサの状態を表示します。
3	PTO ロールアリ コンベア テーブル	PTO センサの状態を表示します。 ロール検出センサの状態を表示します。 コンベアセンサの状態を表示します。 テーブル中間センサの状態を表示します。

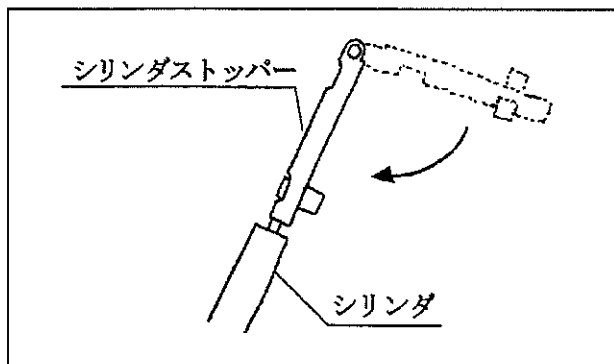
※表示が 1 : ON、0 : OFF

運転に必要な装置の取扱い

2. シリンダストッパーの取扱い

◆チャンバーを開けたままでロックするときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、左右共必ずシリンダストッパーをセットしてください。



！ 注意

左右共必ずシリンダストッパーをセットしてください。

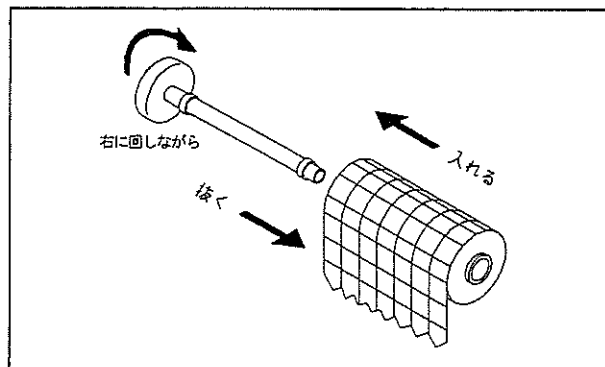
チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。

これを怠ると重大な傷害事故につながる恐れがあります。

3. ネットの取付け

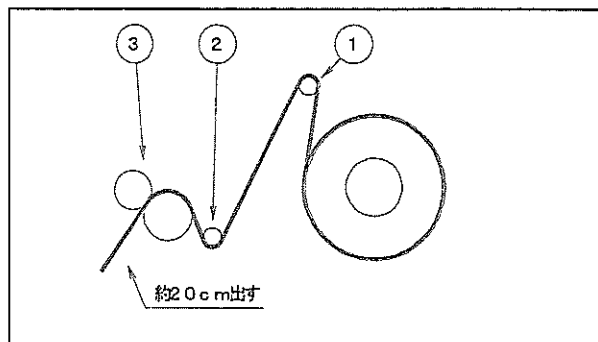
◆ネットを入れる

下図のようにネットを入れてください。ネットの端はあらかじめ20 cmほど引き出しておきます。



◆ネットを通す

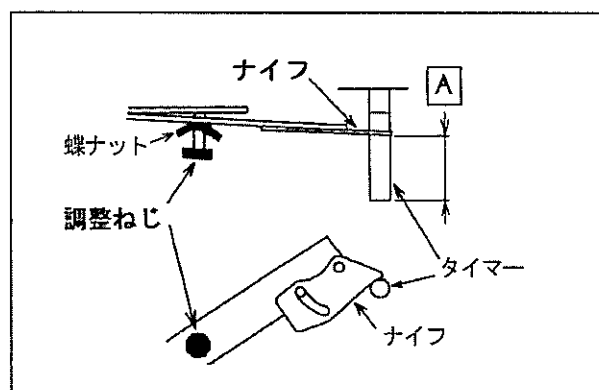
①～③の順に束ねて通してください。ネットは自動的に広がります。通し終わったら、たるみを取りながら本体にセットしてください。



◆巻き数を設定する

ネットの巻き数は無段階に調整できます。

調整ねじを締めると少なく、緩めると多く巻けます。



ナイフをタイマーに乗せた時、**A**の長さを希望する巻き数に調整してください。調整後は、ねじを蝶ナットでロックしてください。

下表は**A**の長さと巻き数の目安です。

巻き数(回)	2	2.5	3	3.5
A の長さ	31	38	46	54

運転に必要な装置の取扱い

◆巻き数の目安

1 巻きのネットで巻けるロール個数の目安は下表の通りです。

巻き数(回)	2	2.5	3	3.5
ロール個数	300	240	200	170

◆ブレーキ力を調整する

ブレーキが弱いとネットが広がらず、強いと切れやすくなります。

ブレーキ力は、ネットの後ろ側にあるブレーキバネで調整します。

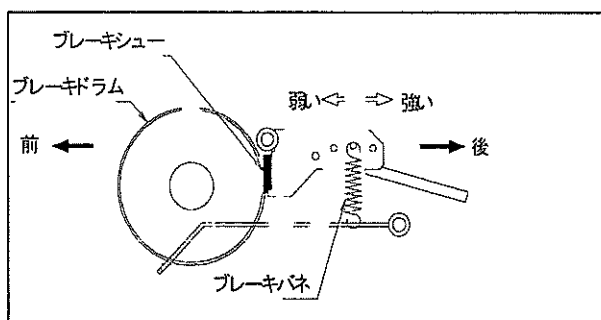
ブレーキバネを下図のように

切れやすい時は前（弱い）へ、

広がらない時は後ろ（強い）へ、

かけかえてください。

ネットロールを前に出すと簡単に調整できます。



注意

ブレーキドラムが錆びていると最初の数ロールはブレーキ力が弱くなります。また、ブレーキシューの減りが早くなります。

4. 自動注油装置の取扱い

◆自動注油時

ロールをラップマシーンに搬送し、チャンバーが閉じてから、電動ポンプが作動してタイトチェーンに注油されます。

◆作業中はオイル残量に注意

注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。

注意

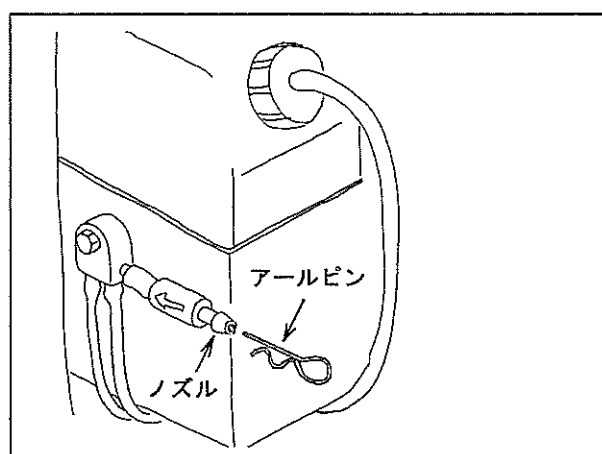
注油タンクのオイル不足により注油されない状態で作業すると、機械の寿命を著しく低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆電動ポンプのエア抜きを行う

注油タンク内のオイルが減って、配管内に空気が入った場合、オイルが供給されなくなりますのでエア抜きを行う必要があります。

注油タンクの後ろにあるノズルにアールピン等を入れ、チャンバー閉スイッチを作動させます。ノズルからオイルが勢いよく出てきたらエア抜き完了です。

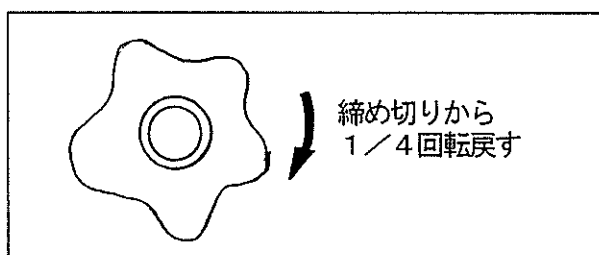
押し込み量は最大3.5mmです。押し込み過ぎると、オイル漏れの原因になりますので、押し込み過ぎないように注意してください。



運転に必要な装置の取扱い

- ◆定期的にノズルの清掃を行って下さい
注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。

- ◆注油量の設定
注油量は、下図を目安として調節してください。



警告

点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

5. 油圧装置の取扱い

- ◆チャンバー開・閉の油圧装置です。
本機は、ポンプ・タンク一体型の油圧パッケージを装備しています。

- ◆PTOが回転している間は作動します
油圧パッケージは、PTOが回転している間、油圧力が発生し、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

●油圧パッケージオイル交換
交換 : 500時間毎又は年1回
指定作動油 : 昭和シェル
テラスオイル#68
オイル量 : 約5ℓ (ゲージ管理)
(タンクのみでは4ℓ)

- 全量交換する場合は、ISO VG68 耐摩耗性作動油相当品でもかまいません。

注意

- 油圧パッケージオイルの点検は3本のシリンダー（チャンバー、テーブル）がすべて最縮時に点検してください。
最伸時にタンクを満タンにすると、シリンダーを縮めた時にオイルがオーバーフローする事があります。

6. 安全装置の取扱い

◆メインシェアボルト

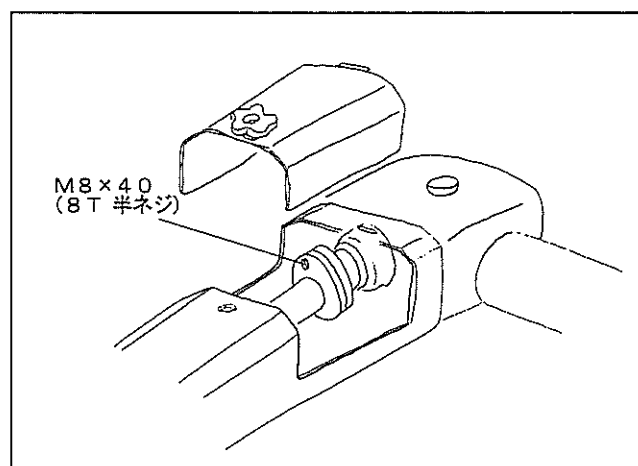
前部中央のミッション前方のカバー内にあります。切損した場合は、必ずエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合せてボルトを入れます。

使用するボルトはM8×40（8T、半ネジ）1本です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因になりますので絶対に使用しないでください。

◆シェアボルトがよく切損する場合

ピック部での詰まり、もしくは梱包圧の上げすぎが原因です。

適正なウインドローを作り梱包圧を下げてください。

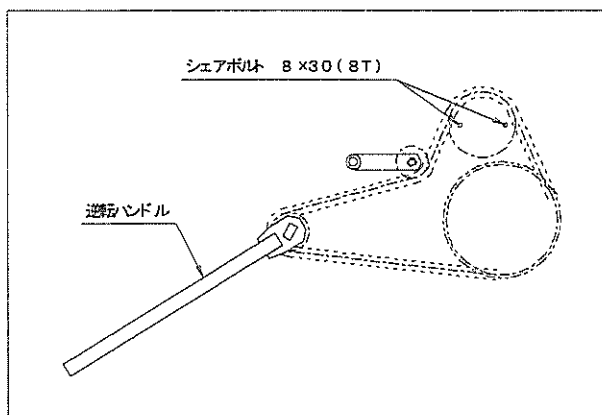


運転に必要な装置の取扱い

◆ロールベアラ部のシェアボルト

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合わせてボルトを入れてください。

使用するボルトは、M8×30-8T全ネジ（2本）です。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



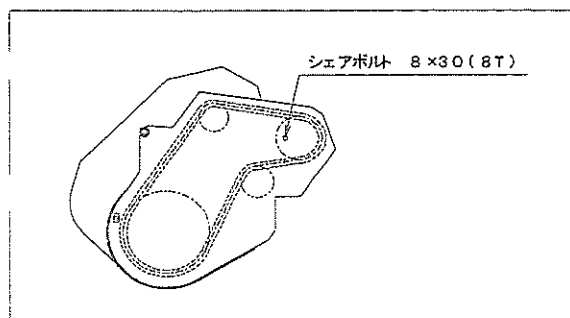
⚠ 警告

シェアボルト交換後は逆転ハンドルを必ず外してください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

◆ピックアップ部のシェアボルト

ピックアップ左のカバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止しピックアップ部の草を取除き、タイヤを手で回して穴を合わせます。

使用するボルトはM8×30-8T全ネジです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因になりますので絶対にやめてください。



◆シェアボルトがよく切損する場合

作業速度を遅くしてください。

凸凹の多いほ場では、ローワーリンクを上げてタイヤが地面と接触しないようにしてください。

7. ピックアップ装置の取扱い

電動昇降装置を装備しています。

ピックアップから「カチッ」という音が聞こえるまでコントロールボックスのスイッチを操作し続けてください。

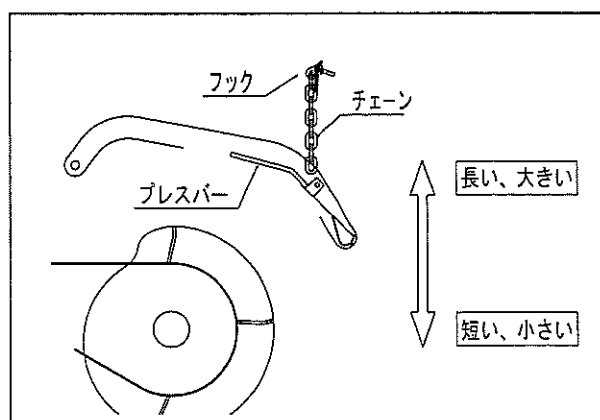
注意

移動時は必ず最上げ状態にしてください。
これを怠ると機械を破損させる原因になります。

◆プレスバーの使い方

チェーンをフックから外して高さを調整します。

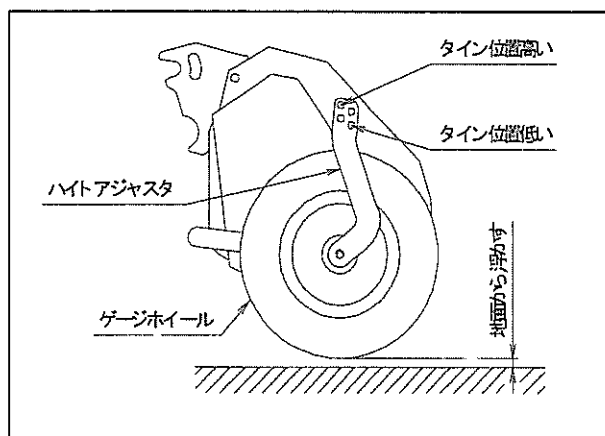
ウインドローの大小、草の長短で位置を決めてください。



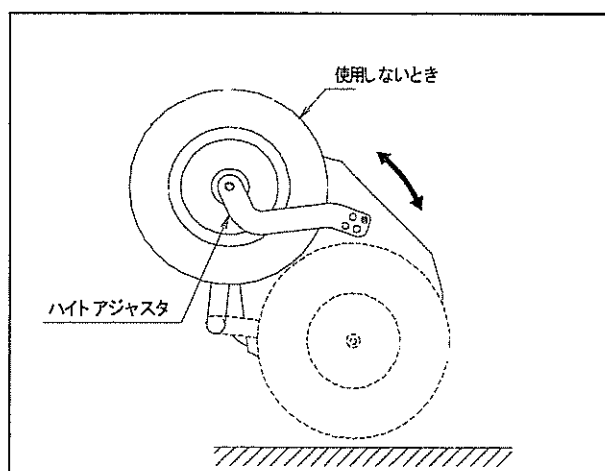
運転に必要な装置の取扱い

◆ゲージホイールの使い方

ハイトアジャスタを左右とも、希望する高さに固定してください。
ゲージホイールは地面から少し浮かせた状態で使用してください。



ゲージホイールを使用しない時は下図のように、ハイトアジャスタを組み替えてください。



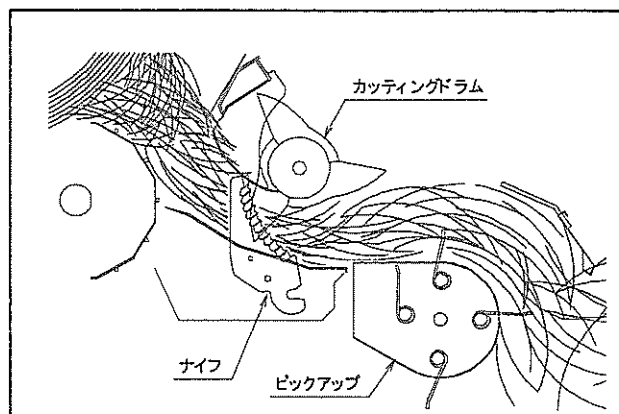
注意

ゲージホイールで草を踏むと、カッティングドラムやピックアップで詰まりやすくなります。

8. 切断装置の取扱い

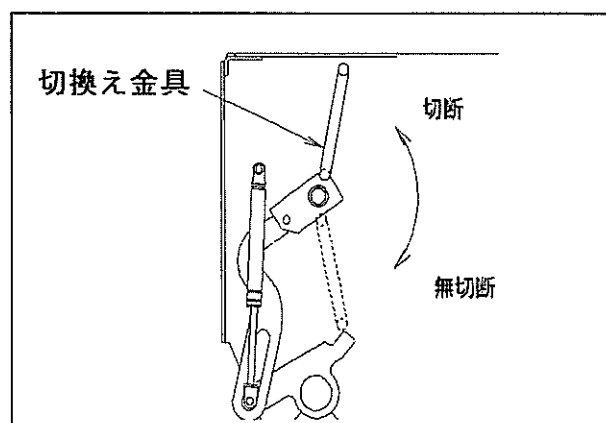
◆切断装置について

図のように草はピックアップより拾い上げられた後、カッティングドラムとナイフの間で切断（理論切断長90mm）されると同時に成形室に送られベールが形成されます。



◆切断／無切断の切換え

機体右下に切換え金具があり、レバーの上下でナイフの出入ができます。



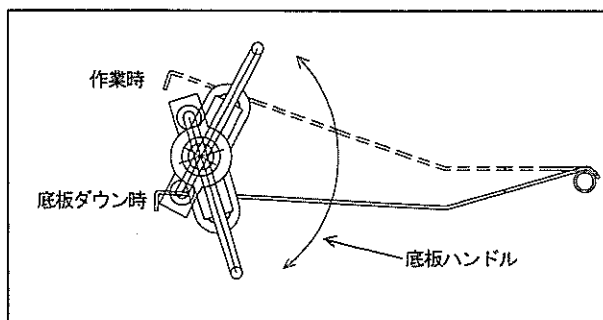
運転に必要な装置の取扱い

9. 底板ダウン装置の取扱い

◆詰まったときは

- ① 切断で使用时は無切断に切換えてください。(前項8. 参照)
- ② 底板ハンドルを下げてください。
- ③ エンジン回転をある程度保ったままゆっくりとP T Oをつないでください。

詰まりが取れた後は、底板ハンドルを上げ、切断・無切断の切換えは作業に合せて決定してください。

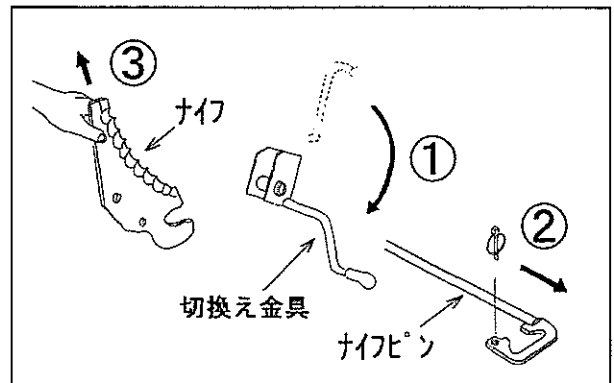


底板ダウン状態のまま作業すると、「つまり」「シェアボルト切損」の原因になります。

10. ナイフの交換

チャンバーを開け、シリンダーストッパーをセットします。エンジンは必ず停止させてください。

- ① 切換え金具を無切断にしてください。
- ② ナイフピンを抜いてください
- ③ ナイフを抜いてください。



⚠ 注意

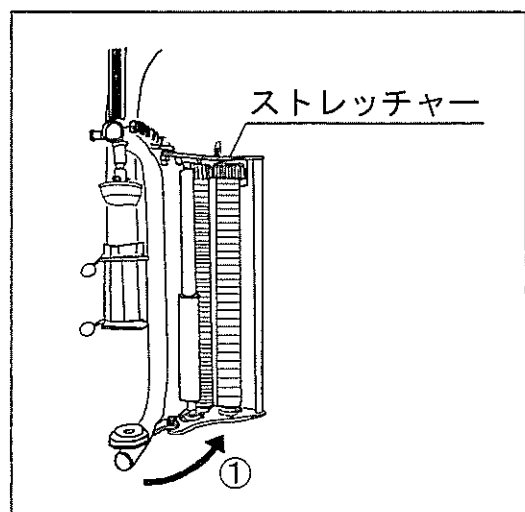
ナイフの取り扱いには十分注意をしてください。

これを怠ると傷害事故につながる恐れがあります。

11. フィルムの装着のしかた

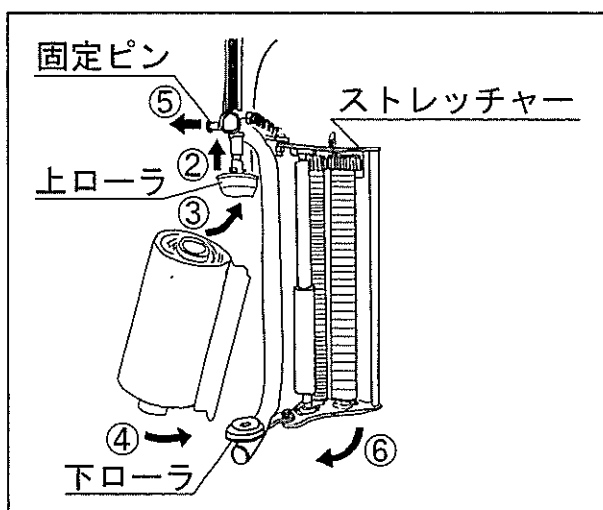
使用できるフィルムは500mm幅です。また、フィルムの伸び率は約150%です。

- ① ストレッチャーが固定される位置まで左回転させ開けてください。



運転に必要な装置の取扱い

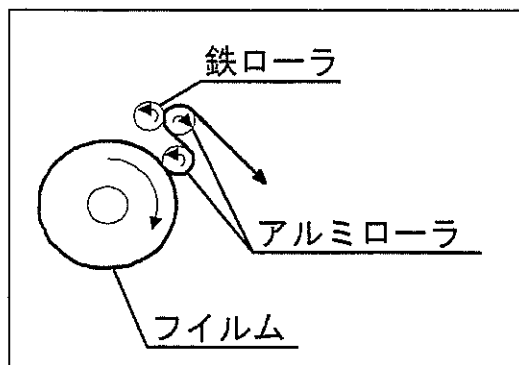
- ②上ローラを押し上げて固定します。
(押し上げると自動で固定されます)
- ③フィルムの切れ端を図の方向にして、
フィルムの上側の中芯を上ローラに
押し当てます。
- ④フィルムの下側の中芯を下ローラの
上に乗せます。
- ⑤固定ピンを引張り、上ローラを中芯に
セットし、フィルムを固定します。
- ⑥ストレッチャーをフィルム側に回転
させ、ストレッチャーをフィルムに接
触させます。



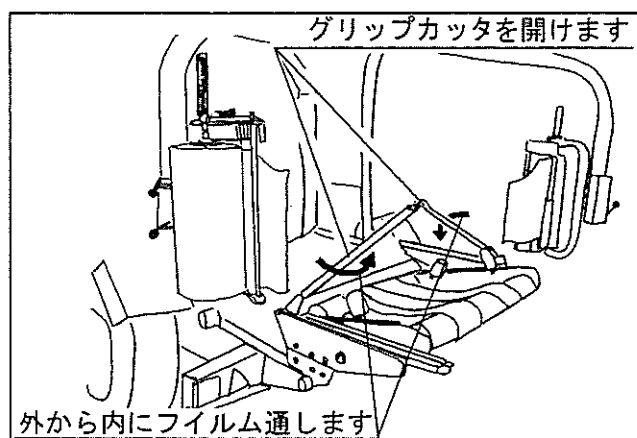
⚠ 注意

固定ピンを引張る時には、フィルムの中芯周辺に手を置かないでください。中芯と上ローラ指を挟む恐れがあります。

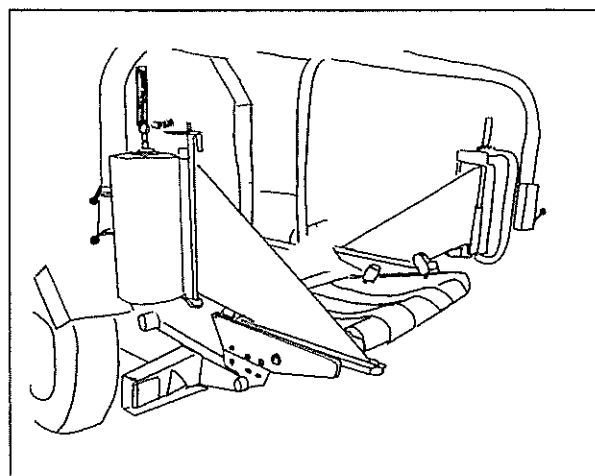
- ⑦下図のようにアルミローラの間にフィルムを通してください。



- ⑧P15のグリップカッタ上下を操作して、グリップカッタを開け、フィルムをグリップカッタに挟んでください。



- ⑨フィルムを挟んでグリップカッタを閉じてください。



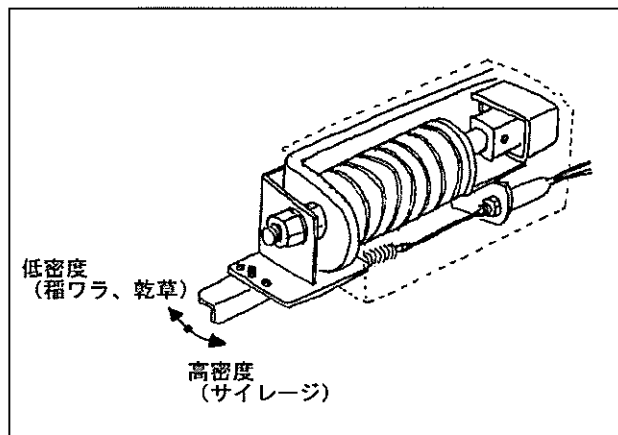
運転に必要な装置の取扱い

1 2. 梱包密度の設定

本体右側のチャンバーロック金具部にあります。

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にコントロールボックスのブザーを鳴らし、ネットの自動繰り出しに連動します。

下図を参考にして作物ごとに調整金具の位置に変えてください。



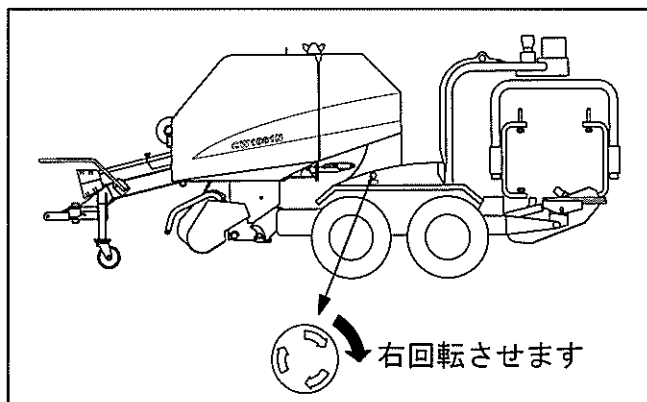
1 3. 緊急停止スイッチ

本体左側に付いています。

このボタンを押すと、全ての動作が停止され、コントロールボックスに「ツウシンエラー」と表示されます。

復帰する場合には、ボタンを右回転させてください。

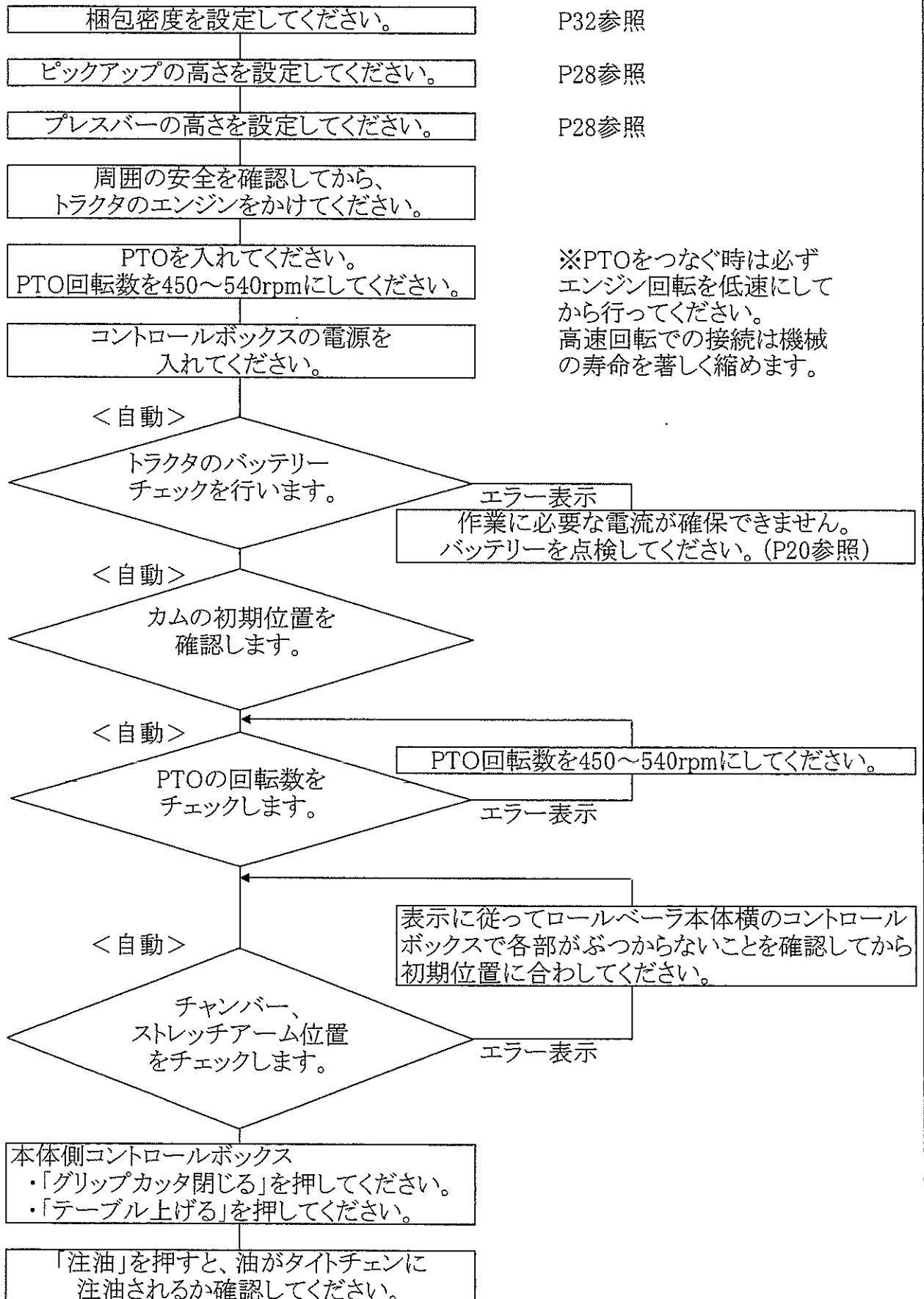
ボタンが手前に出ます。



作業方法

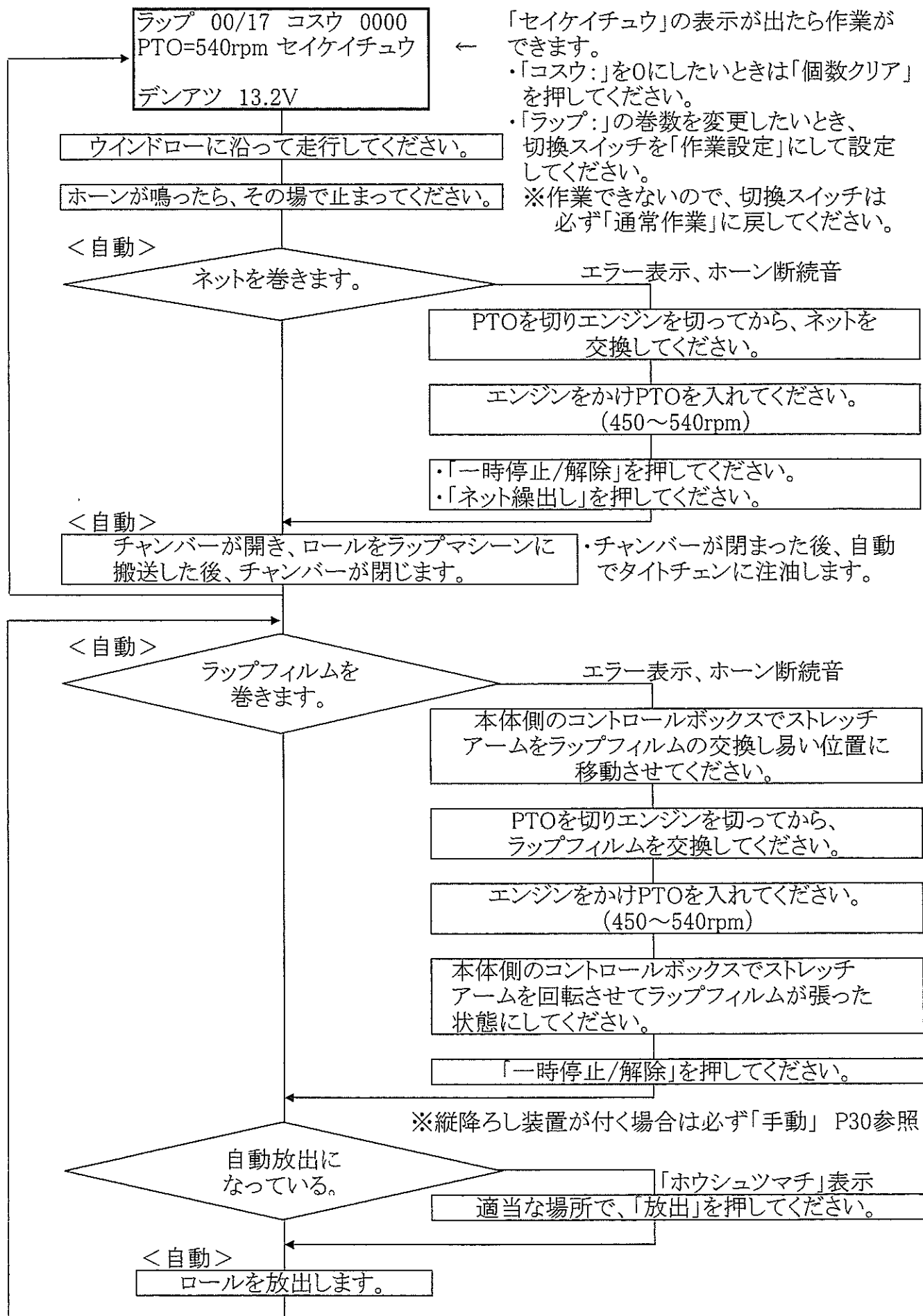
1. 作業前準備の流れ

- ネット・フィルムを取り付けてください。
- 各部の給油・グリスアップを行ってください。
- 注油タンクにオイルを補充してください。



作業方法

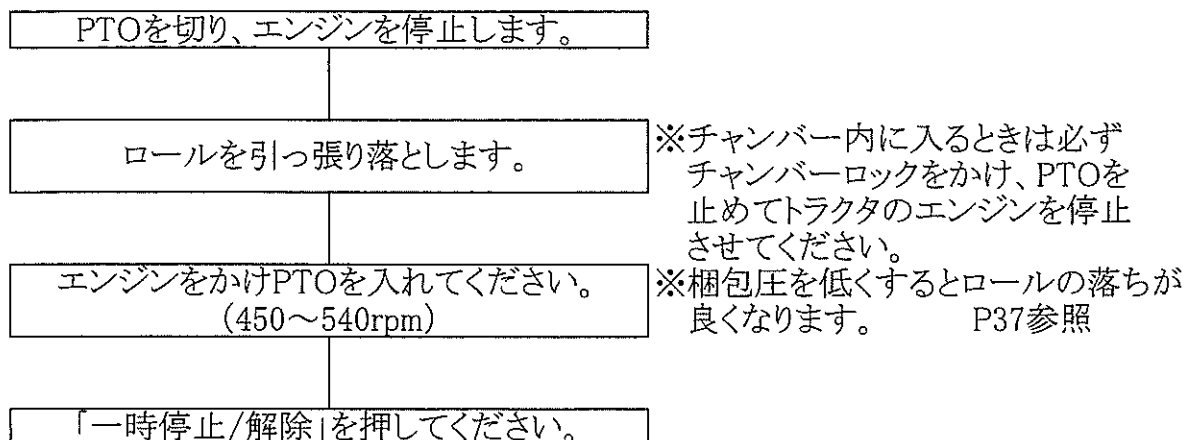
2. 作業の流れ



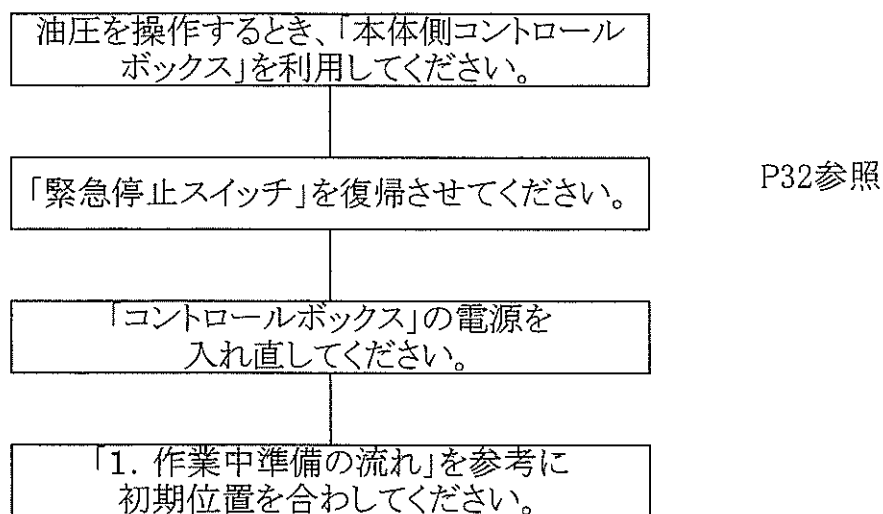
作業方法

3. 作業再開の流れ

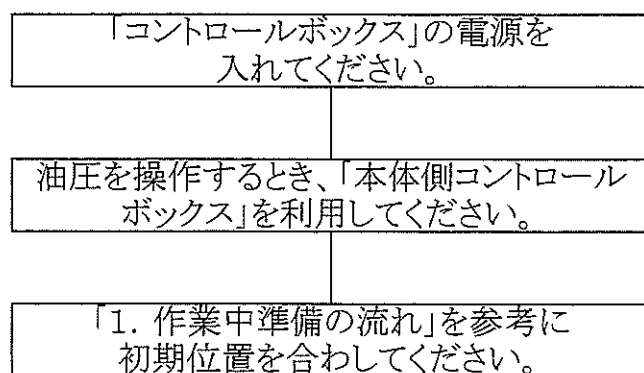
ロールがリアチャンバーに引っかかり落ちない場合



作業途中で本体側の緊急停止スイッチを押した場合

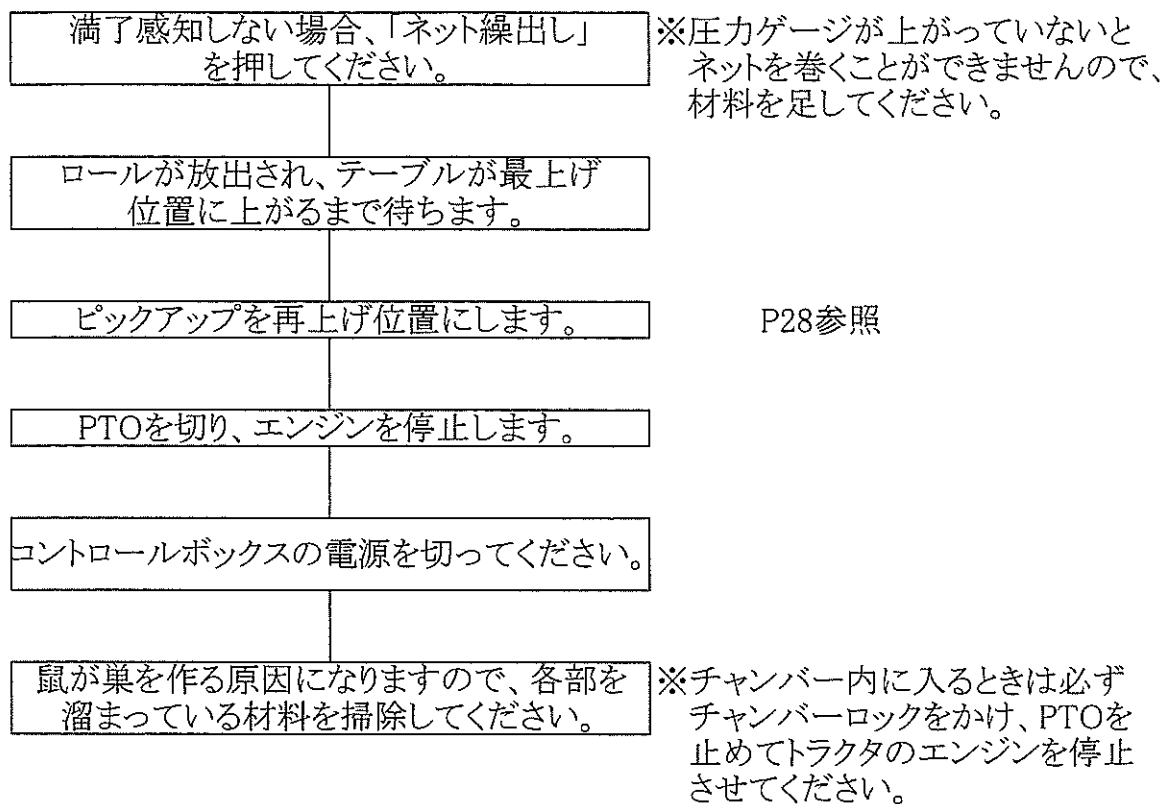


作業途中でコントロールボックスの非常停止スイッチを押した場合



作業方法

4. 作業後の流れ



作業方法

5. 拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

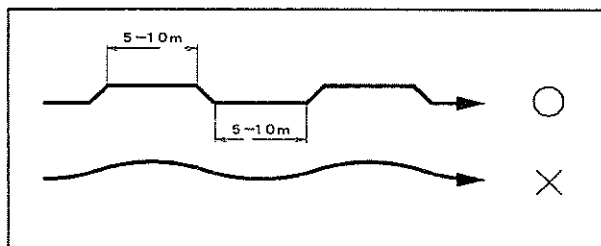
注意

ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

◆梱包作業

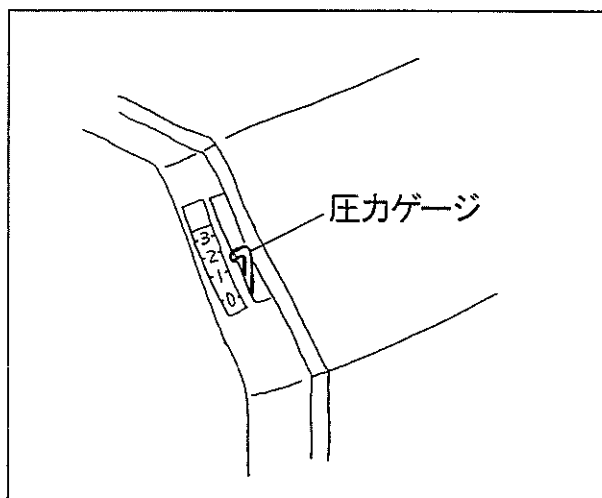
能率よく、形のよいロール作するためには草がベラの幅いっぱいに入るように走行しなければなりません。

ウインドローの幅が狭い場合は下図の上のように走行して、左右交互にピックアップで拾うようにしてください。下のように蛇行運転すると形のよいロールになりません。



◆ゲージ確認

右側にゲージが装備されています。ゲージ針が動き始めたら走行速度を落としてください。



6. 作業速度について

3 km/時～7 km/時が適正速度です。切断作業をする場合は、これより速度を落としてください。

7. コーナーでの走り方

コーナーではウインドローが大きくなりやすくなりますので、作業速度を落としてください。

！ 注意

後方に人や動物のいないことを確認してください。

また、傾斜地では放出した梱包ロールが転動しないよう、平坦な場所に放出してください。

◆放出確認してチャンバーを閉じる

チャンバーから放出できたことを確認してから、チャンバーを閉じ再び作業をスタートしてください。

8. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急ハンドルを切らないで旋回してください。

！ 警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は、始業時に欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させ、回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	チェック
1	コントロールボックス電源	液晶表示確認	
2	ネットブレーキドラム	錆チェック	
3	ネット繰り出しローラ	泥、汚れチェック	
4	繰り出しベルトテンショナー	動作チェック	
5	タイトバーのゆるみ	増締	
6	タイトチェーン	伸びチェック	
7	駆動チェーンの張り調整	テンションボルト調整等	
8	ピックアップドラムのタイン折れ・曲がり	補充又は修理	
9	ピックアップドラムの草等の巻き付き	草・ネットの巻き付きを除去	
10	自動注油タンク	オイル補充、ノズル掃除	
11	予備シェアボルト	不足の時は補充	
12	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充	
13	ネット・フィルム切断ナイフ	切れ味チェック	
14	ラップ部テーブルベルト	破れ等確認	
15	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	
16	油圧パッケージ給油	油圧オイル補充	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

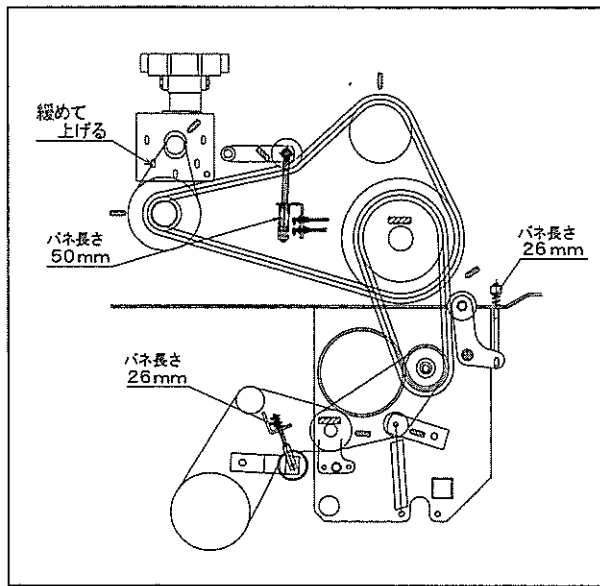
1. チェーンの張り調整

◆タイトチェーン部

「運転に必要な装置の取扱い」にそって張り調整を行なってください。

◆駆動チェーン部

図の要領で張り調整を行なってください。



注意

チェーンは特に初期伸びをします。
初めての使用から1時間後に張り調整を行ってください。

警告

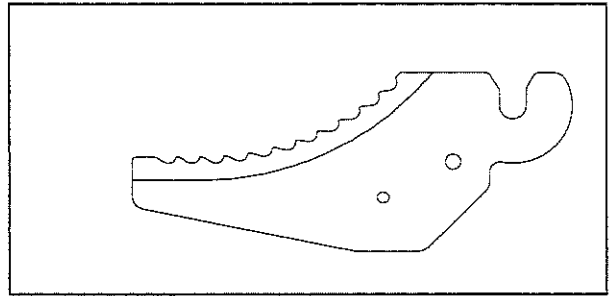
チェーンの張り調整や、各部の調整をするときは、P T Oを切りエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。

2. 切断ナイフの手入れ

◆定期的に研磨する

ナイフは研磨しないと切れ味が悪くなり、馬力がより必要となる原因にもなります。

毎作業前に刃面を研磨してください。



注意

ナイフの取り扱いには十分注意をしてください。

これを怠ると傷害事故につながる恐れがあります。

注意

一気に研磨すると焼なましされてナイフの減りが早くなります。
少し研磨して冷やす、を繰り返してください。

3. タイヤの点検

◆装着のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤは、チューブレスタイヤを装備しています。

空気圧は下記の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

●10. 0/80-12 10PR

常圧タイヤ内圧

390KPa (3.9kgf/cm²) 以下

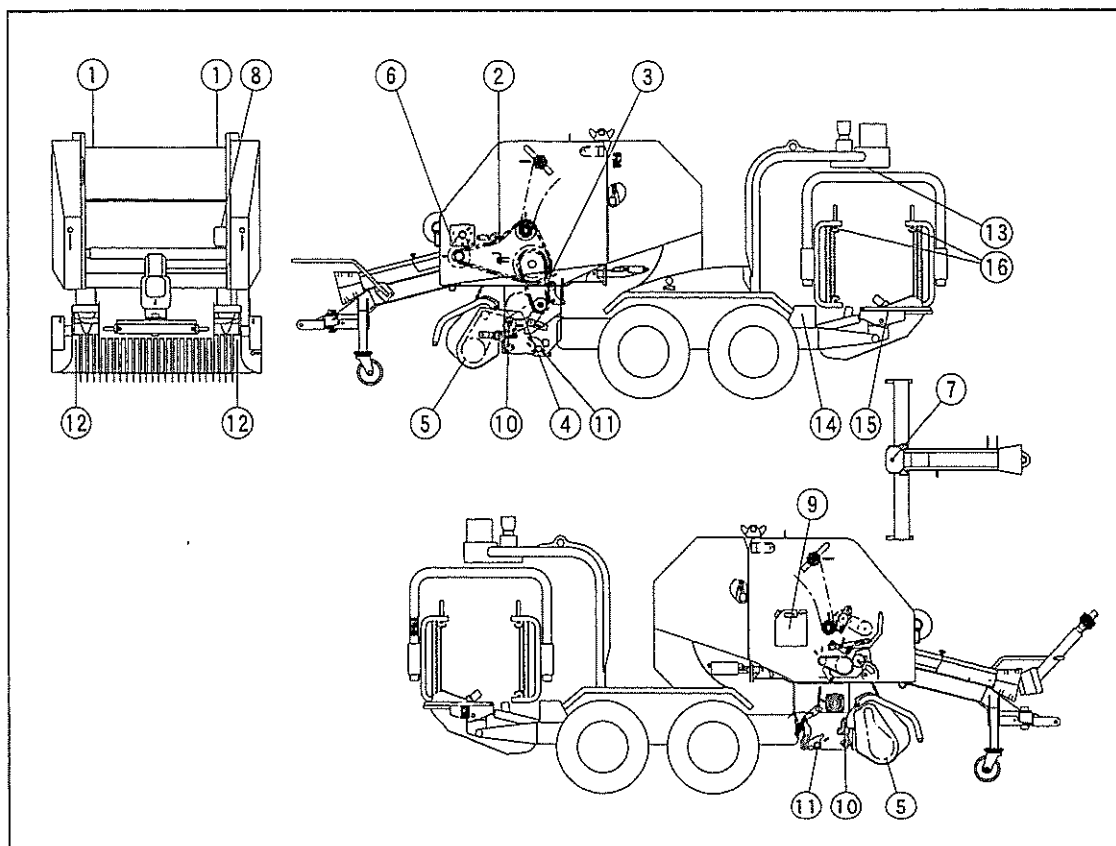
警告

- ①タイヤに関係する作業を行う場合は安全な場所に本機を止め、必ず歯止めをしてから行ってください。
- ②タイヤおよびホイールに関する修理は十分な設備をもつタイヤショップ等の専門の所に依頼してください。

簡単な手入れと処置

4. 各部の注油・グリスアップ

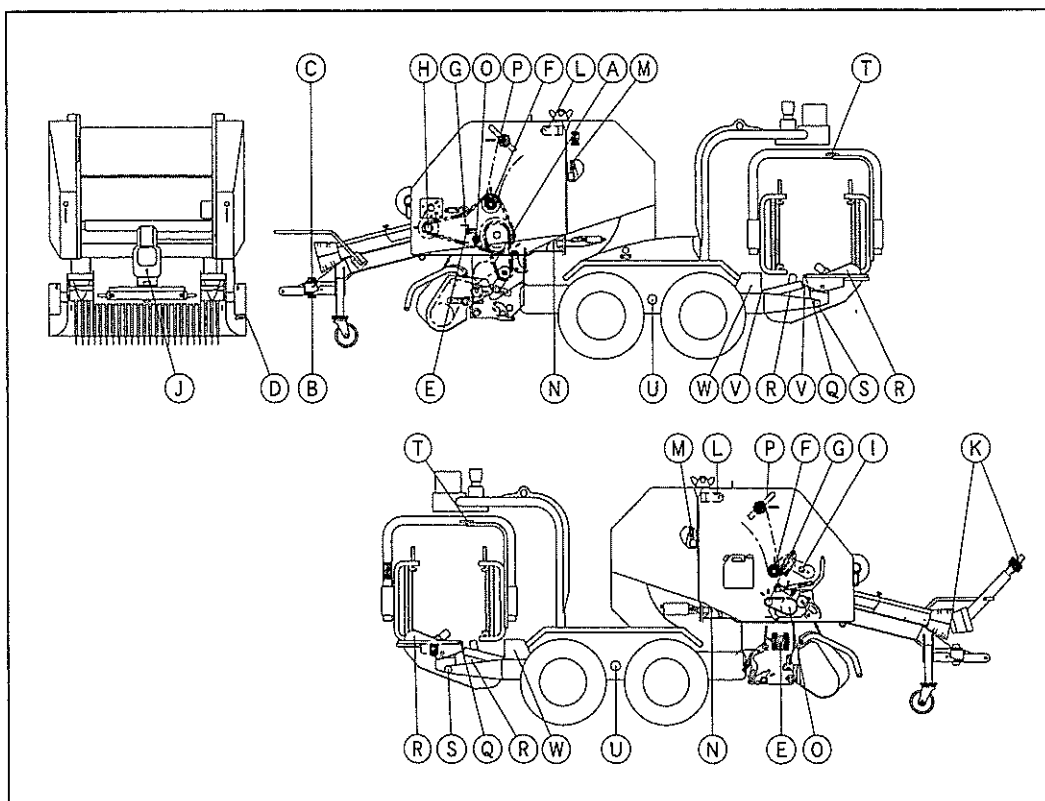
1. 図表に従って各部に注油を行ってください。



番号	場所	注油時間
1	タイトチェーン（左右）	作業前
2	#80 チェーン	作業前
3	#80 チェーン	作業前
4	#50 ピック中間チェーン	20 時間毎
5	#50 ピックチェーン（左右）	20 時間毎
6	油圧パッケージチェーン	20 時間毎
7	ミッションケース／ギヤオイル#90 0.5ℓ	100 時間毎に入れ替え
8	油圧パッケージ／油圧作動油#64 4ℓ	作業前に確認
9	注油タンク（右カバー内側）	作業前に確認
10	ピック支点（左右）	20 時間毎
11	ナイフ切換支点（左右）	20 時間毎
12	ピックタインバー（左右）	20 時間毎
13	ラッピングアーム駆動チェーン	作業前
14	コンベア送り駆動チェーン	作業前
15	グリップカッタ可動部	作業前
16	ストレッチアルミローラギヤ部	作業前

簡単な手入れと処置

2. 図表に従って各部にグリスアップを行ってください。



番号	場所	注油時間
A	ドラムギヤ	作業前
B	Vヒッチ支点（上下）	作業前
C	Vヒッチ回転部	作業前
D	ピックアップカム部	作業前
E	カッティングドラム軸ベアリング（左右）	20 時間毎
F	タイトチェーン軸ベアリング	20 時間毎
G	フロントローラ軸ベアリング	20 時間毎
H	駆動軸ベアリング	20 時間毎
I	ゴムローラ	20 時間毎
J	入力軸	20 時間毎
K	ジョイント両端（2ヶ所）	20 時間毎
L	チャンバーしてン両端（2ヶ所）	20 時間毎
M	シリンダ上（左右）	20 時間毎
N	チャンバーロック支点	20 時間毎
O	搬送ローラ軸（左右）	20 時間毎
P	タイトチェーンテンションライダー（左右）	20 時間毎
Q	グリップカッター（左右）	20 時間毎
R	テーブルローラ軸ベアリング（4ヶ所）	20 時間毎
S	ラップテーブル回転支点軸（左右）	20 時間毎

簡単な手入れと処置

T	ストップアーム支点（2ヶ所）	20 時間毎
U	タンデム車輪支点（4ヶ所）	20 時間毎
V	テーブルダンプシリンダ支点	20 時間毎
W	コンベア軸ベアリング	20 時間毎

5. 長期格納時の手入れ

- 付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
 - 各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、錆ないようにしてください。
 - 塗装のはがれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。
 - 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納する場所は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。

6. センサ類の調整

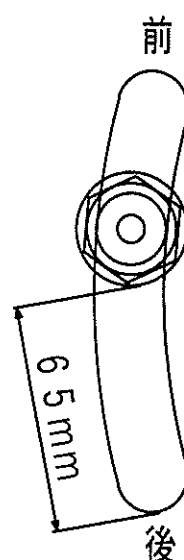
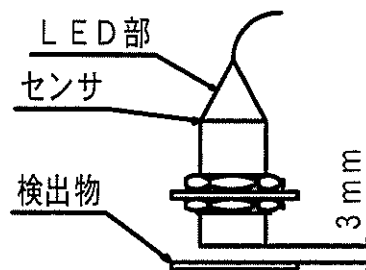
警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを停止させ、エンジンを止めた状態で行ってください。

※各センサの位置は(P13)を参照してください。

◆PTO、ストレッチアーム初期位置センサの調整方法

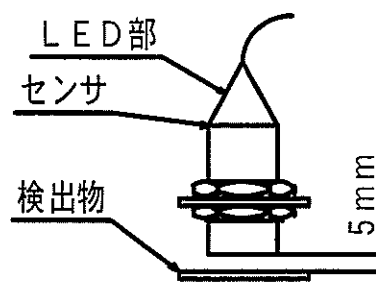
- ①図に示すように、センサを検出物から3mmの位置に調整してください。
- ②コントロールボックスの電源を入れて、センサが検出物に反応することをLED部の点灯で確認してください。



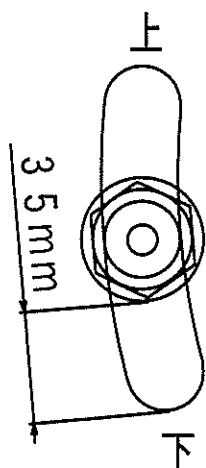
ストレッチアーム初期位置センサの標準取付け位置は長穴の後から65mmの位置です。

◆コンベア、テーブル中間、フィルム切れ1、フィルム切れ2センサの調整方法

- ①図に示すように、センサを検出物から5mmの位置に調整してください。
- ②コントロールボックスの電源を入れて、センサが検出物に反応することをLED部の点灯で確認してください。



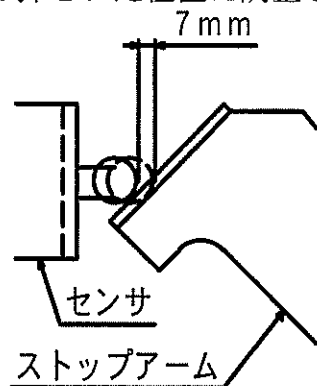
簡単な手入れと処置



テーブル中間センサの標準取り付け位置は長穴の下から 35mm の位置です。

◆ストレッチアームストップ1、ストレッチアームストップ2センサの調整方法

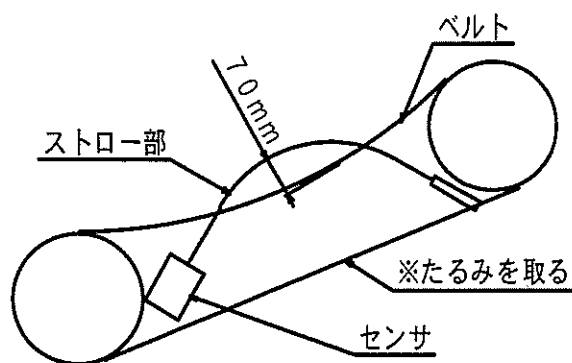
- ①図に示すようにセンサがストップアームに 7mm 押された位置に調整してください。



◆ロール検出センサの調整方法

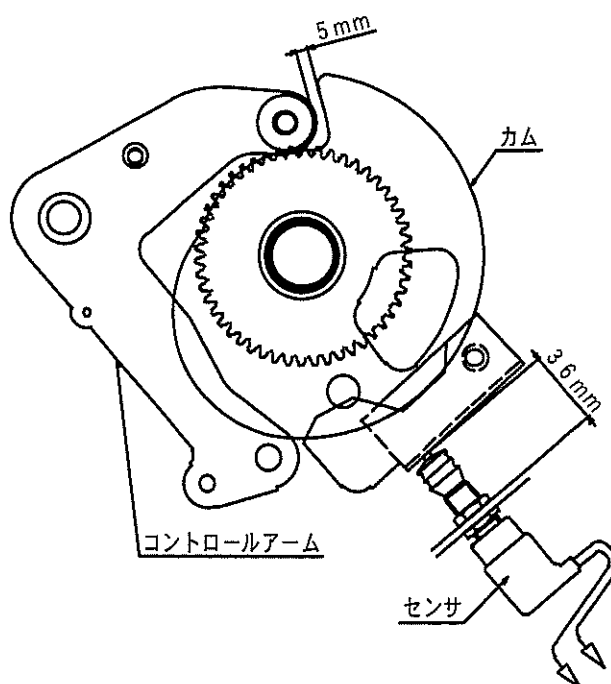
- ①図に示すように、上からベルトを押さえ、ベルトのたるみを取ってください。
- ②センサのストロー部がベルトから 70mm 出る位置で調整してください。
- ③コントロールボックスの電源を入れて、センサチェックが行える状態にしてください。(P24 参照)
- ストロー部を押え、液晶の表示が「1」し、放すと「0」になることを確認してください。

※確認後は必ず「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。



◆カムセンサの調整方法

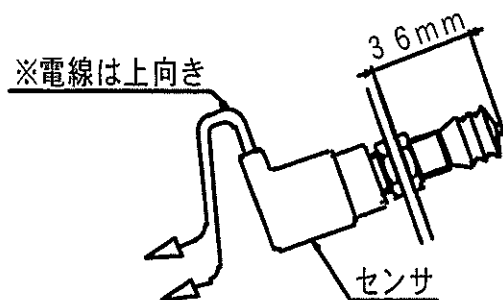
- ①図に示すように、取り付け部からセンサ先端までを 36mm になるようにセンサの位置を調整してください。
- ②コントロールボックスの電源を入れてください。初期設定をして液晶に「セイケイチュウ」と表示される状態にしてください。(P33 参照)
- ③コントロールボックスの「ネット繰出し」を押して、コントロールアームとカムの間が 5mm の位置で停止することを確認してください。
- ※満了感知できないため、確認後はコントロールボックスの電源を入れ直してください。



簡単な手入れと処置

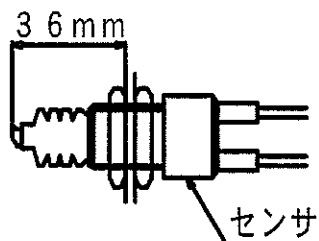
◆タイマーナイフセンサの調整方法

- ①図に示すように、取り付け部からセンサ先端までを 36mm になるようにセンサの位置を調整してください。
- ②コントロールボックスの電源を入れて、センサチェックが行える状態にしてください。(P24 参照)
タイマーナイフを上げると「1」、下げると「0」とコントロールボックスの液晶に表示されることを確認してください。
※確認後は必ず「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。



◆チャンバー閉センサの調整方法

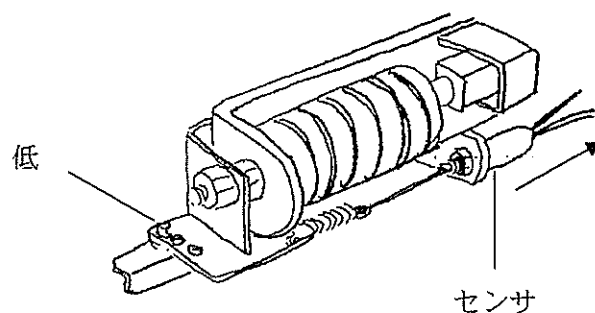
- ①図に示すように、取り付け部からセンサ先端までを 36mm になるようにセンサの位置を調整してください。
- ②コントロールボックスの電源を入れて、センサチェックが行える状態にしてください。(P24 参照)
本体側こんとロールボックスを利用しチャンバーを開くと「0」、閉じる「1」とコントロールボックスの液晶に表示されることを確認してください。



※確認後は必ず「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。

◆満了感知センサの調整方法

- ①梱包密度の位置を「低」にしてください。
- ②コントロールボックスの電源を入れて、センサチェックが行える状態にしてください。(P24 参照)
コントロールボックスの液晶に「1」と表示が出る位置まで図の矢印方向にセンサをずらしてください。
- ③その位置から矢印とは逆方向にナットを 2 回転 (3mm) 戻して固定してください。
※確認後は必ず「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。



不 調 診 断

箇所	不調内容	診断	処置	参照 ページ
ロール	左右の径が 違う	片側にしか草が入って いない	左右均等に入るように走る	37
	固くならない	梱包密度が低い	密度を一段上げて作業する	32
		走行速度が速い	圧力ゲージが上がり始めたら 速度を1段遅くする	-
	馬力が必要	草が馬力の必要な 水分量になっている	密度を一段下げて作業する	32
		注油不足	タイトチェーン、駆動チェーンに 注油する	40
		注油不足	注油タンク、配管に空気が入って いないか確認する	26
	草が入り口で 詰まる	作業速度が速い	速度を1段遅くする	-
		プレスバーの位置が 低い	プレスバーを上げる	28
		ナイフが切れない	ナイフを研磨する	30
		ゲージホイールで草を 踏んでいる	ゲージホイールを地面から 浮かす又は効かなくする	29
放出	フロントケース から出てこない	梱包密度が高すぎる	密度を一段下げて作業する	32
		前傾姿勢で作業して いる	作業機が水平になるように ロワーリンクを調整する	-
ピック	ピックアップが 昇降しない	ギヤーのかみ合い部に ほこりが噛んでいる	ほこりを除去する	-
		支点部の回転が固くな っている	ピック昇降ギヤーの 支点部に注油する	40
	昇降速度が遅い	支点部の回転が固くな っている	ピック昇降ギヤーの 支点部に注油する	40
	短い草を拾わな い	タインで前に吐き出し ている	プレスバーを下げる	28
	シェアボルトが よく切れる	タインで地面を搔いて いる	ロワーリンクを上げる	-
ネット 装置	ネット巻きがス タートしない	ベルトテンションが動 作していない	テンション金具が軽く 動くかを確認する	-
	繰り出しローラ に巻き付く	ゴムローラが濡れてい る	水分をふきとる	-
		土や泥が付着している	土や泥を取る	-

不 調 診 断

	巻き始めにネットが切れる	ブレーキが強すぎる	ブレーキバネを前側に掛けてブレーキを弱くする	26
		P T O回転が速すぎる	5 4 0 回転以下にする	-
		ブレーキドラムがさびている	ブレーキドラムの錆を取る	26
		タイマーナイフがタイマージクに載っていない	タイマーナイフが軽く動き、タイマー軸に載るように掃除する	25
	ネット巻きが緩い	通し方が間違っている	通し方を確認する	25
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	26
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	26
	ネットが広がらない	通し方が間違っている	通し方を確認する	25
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	26
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	26
	放出後にネットが破れる	巻き数が少ない	巻き数を3回以上にする	25
	切断しない	タイマーナイフが減っている	タイマーナイフを交換する	25
チャンバー	チャンバーが閉まらない	コンベアセンサが反応していません	センサを調整する	42
		ロール検出センサが反応していません	センサを調整する	47
電装	ネット巻き付け後、チャンバーが開かない	タイマーナイフセンサが反応していません	センサを調整する	42
		タイマーナイフが下りていません	タイマーナイフを交換する	25
		ラップマシーンにロールが載っています	ロールを放出する	34
			ロール検出センサを調整する	43
	満了感知がしない	「セイケイチュウ」の表示が出ていない	作業前準備を行う。	34
	メインヒューズがよく切れる	繰り出しギヤー部にほこりが噛んでいる	繰り出しギヤー部のほこりを除去する	-
	コントロールボックスの電源が入らない	コードが抜けている	コードを接続する	20
		ヒューズが切れている	ヒューズを交換する	20, 21

不 調 診 断

注油	オイルが出ない	タンクとポンプの配管にエアーが入っている	エアー抜きをする	26
		番手が大きい	番手を32番にする	26
			調整ネジをゆるめる	
	オイルが出すぎる	番手が小さい	番手を32番にする	27
調整ネジをしめる				
ラップ	アームが回転しない	設定巻き数が0になっている	設定巻き数を8以上にする	23
	ロールが放出されない	放出自動がOFFになっている	「放出」ボタンを押す	34

●コントロールボックスエラー表示一覧

液晶表示	原因と処置	参照ページ
カム ショキ シッパイ カムガ カイテンデ キマセン	①カムのギヤ一部のほこりを除去します ②コントローラの電源を入れ直します	43
バッテリーデ アツガ ヒクスギ マス バッテリーテンケンスル セッテンチチェックスル	①トラクタのエンジン回転数を上げて3分程してからコントロールボックスの電源を入れ直す ②改善されない場合、トラクタの取扱説明書に従い、バッテリー、バッテリーケーブル、オルタネータを確認します	20
アームガ スレチマス ホンタイ/シュト ウスイッチデ アームヲショキチヘアワセル	本体側コントロールボックスでストレッチアームを初期位置に合わせます (ストレッチアーム初期位置センサのLED が点灯)	42
フィルムガ キレマシタ	フィルムを交換します	30
チャンバ ヘイセンサカニン	チャンバー閉センサが反応しません。 ①チャンバーの合わせ面に付着した材料を取り除きます ②改善されない場合、チャンバー閉センサを調整します	44
ロールヲイト ウデ キマセン	ロールがリヤチャンバーにくっついている場合、ロールを引張り落とし、「一時停止」を押します	35
	ロールがラップマシーンに載っているが、チャンバーが閉まらない場合、 ①コントロールボックスの電源を入れ直し、初期設定をします ②ロール検出センサが反応し「ラップデキマス」と表示が出るまで、テーブルを動かします ③「ラップ開始」を押し、ラッピング後、ロールを放出します ④ロール検出センサを調整します	43
キンキュウテイ	ストレッチアームストップ1, 2センサが反応しました ①異物を取り除いてください。 ②改善されない場合、ストレッチアームストップ1, 2センサを調整します	42

不 調 診 断

テーブル センサカクニ	テーブル中間センサが反応しません。 ①本体側コントロールボックスでテーブルが 上下できるか確認します ②改善されない場合、テーブルセンサを確認します	42
ツウシンエラー	トラクタ側コントロールボックスのコネクタが 外れているので、コネクタを接続し直す	14
	本体側コントロールボックスのコネクタが 外れているので、コネクタを接続し直す	15
	緊急停止スイッチが押されています 緊急停止スイッチを解除する	32

付 表

1. 主要諸元

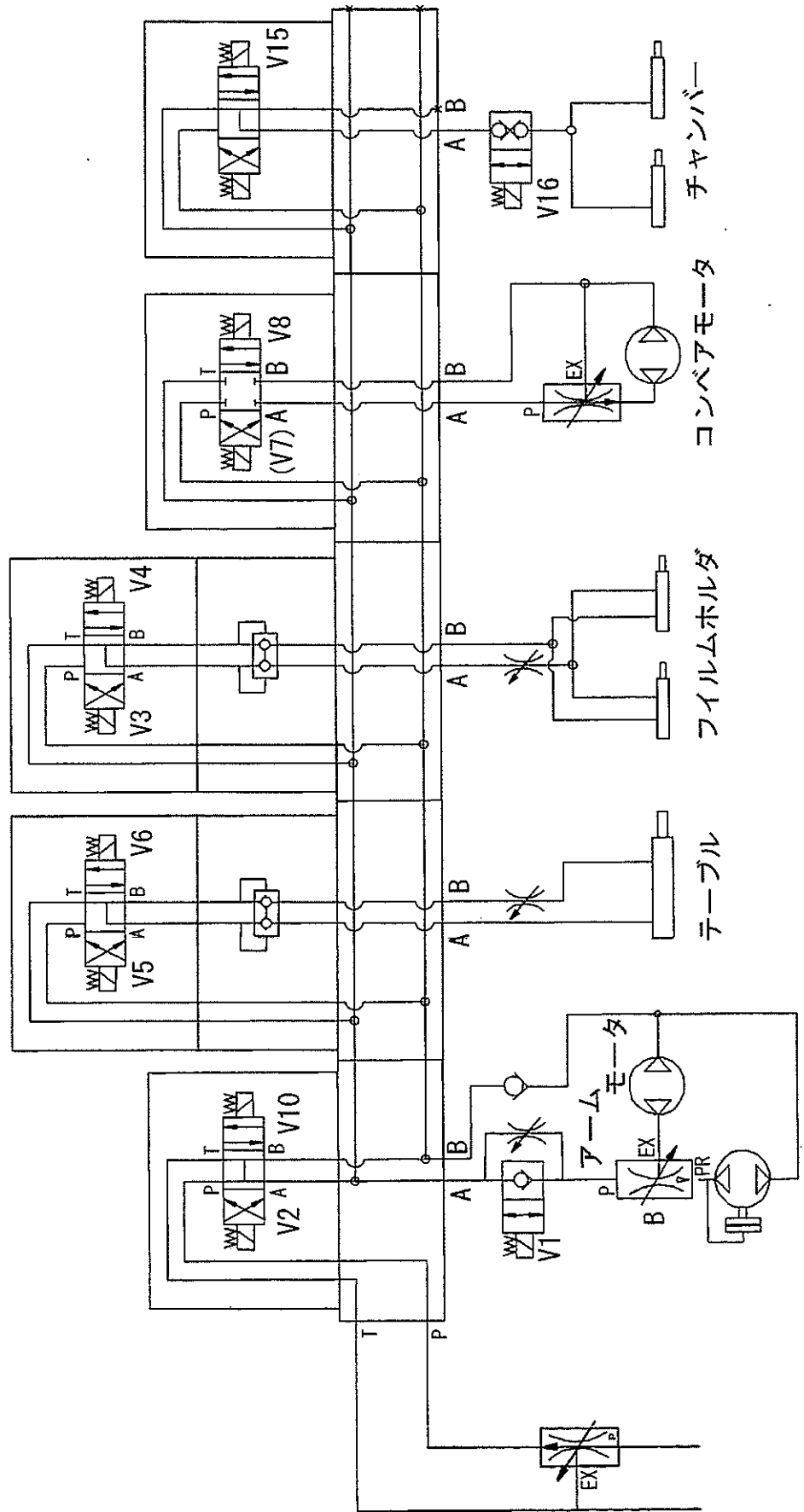
型	式	CW1081N
名	称	中型コンビラップマシーン
装	着 方 法	2 P Vヒッチけん引式
駆	動 方 法	P T O駆動 (回転速度 4 5 0～5 4 0 min ⁻¹ (rpm))
適	応 ト ラ ク タ	44. 1～73. 6kw(60～100PS)
機 体 寸 法	全 長	5, 5 0 0 mm
	全 幅	2, 2 0 0 mm
	全 高	2, 2 0 0 mm
質	量	2, 4 8 0 kg
作	業 幅	1 7 0 c m
ベ	ー ル 寸 法	φ 1 0 0×1 0 0 c m
理	論 切 断 長	9 c m・無切断
チャンバー開閉		内蔵油圧
ラ ッ プ 部 駆 動		
ピックアップ昇降		電動モータ
結	束 装 置	ネット
タ	イヤサイズ	1 0 . 0 / 8 0 - 1 2 1 0 P R
作	業 速 度	3～6 km/h (切断時)
作	業 能 率	9～1 8 分 / 1 0 a

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

付 表

2. 油圧回路

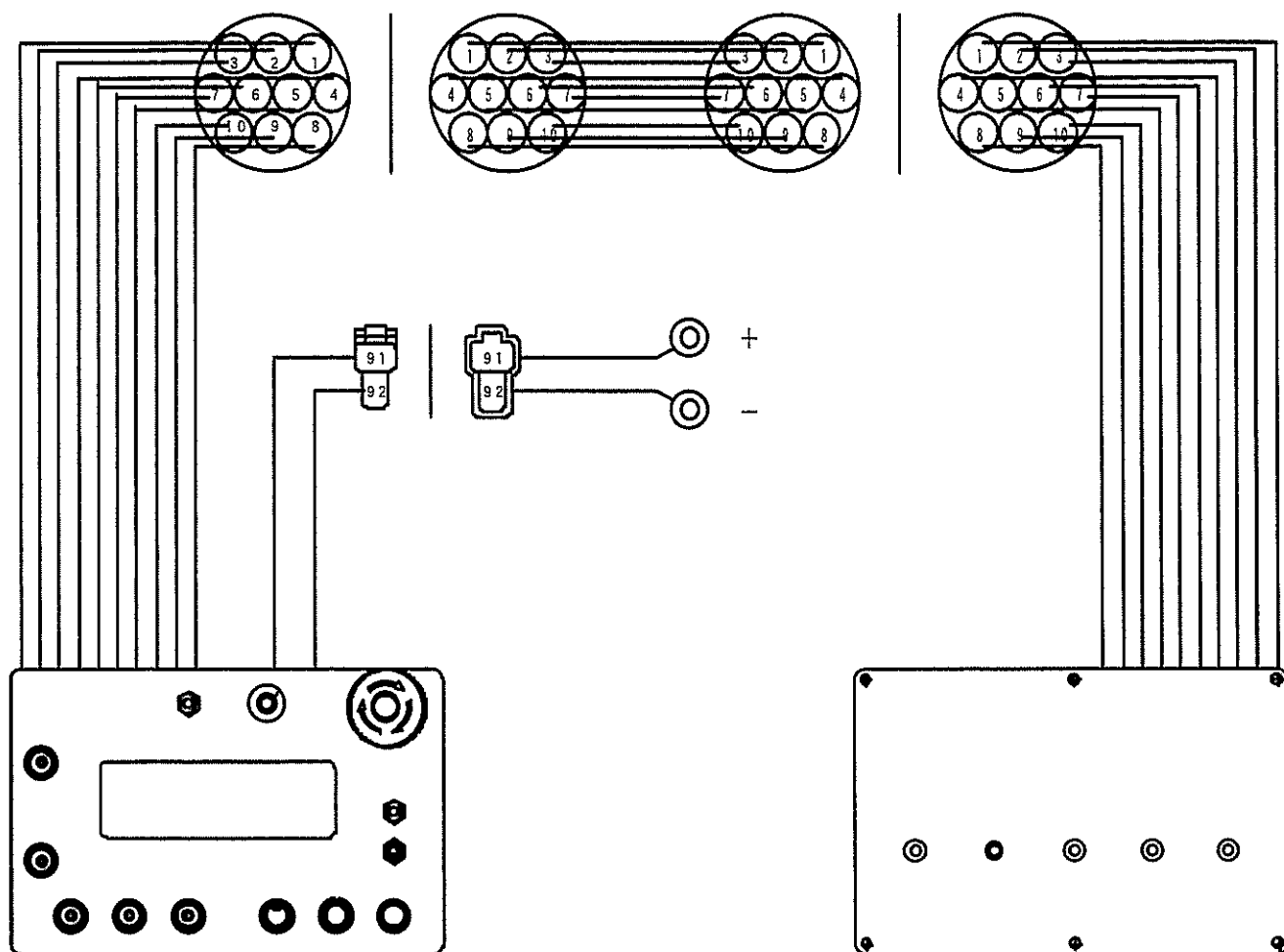
チャンバー開 V2, V15, V16 グリップカッタ上 V2, V3 テーブル上 V2, V6 ストレッチアーム 高速 V10, V1
 チャンバー閉 V16 グリップカッタ下 V2, V4 テーブル下 V2, V5 ストレッチアーム 低速 V10
 コンベア V2, V8



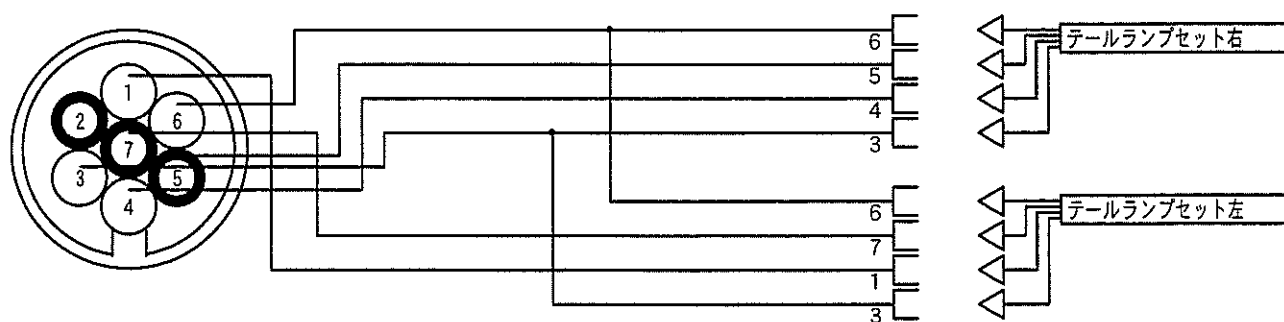
付 表

3. 配線図

・コントロールボックス通信部分

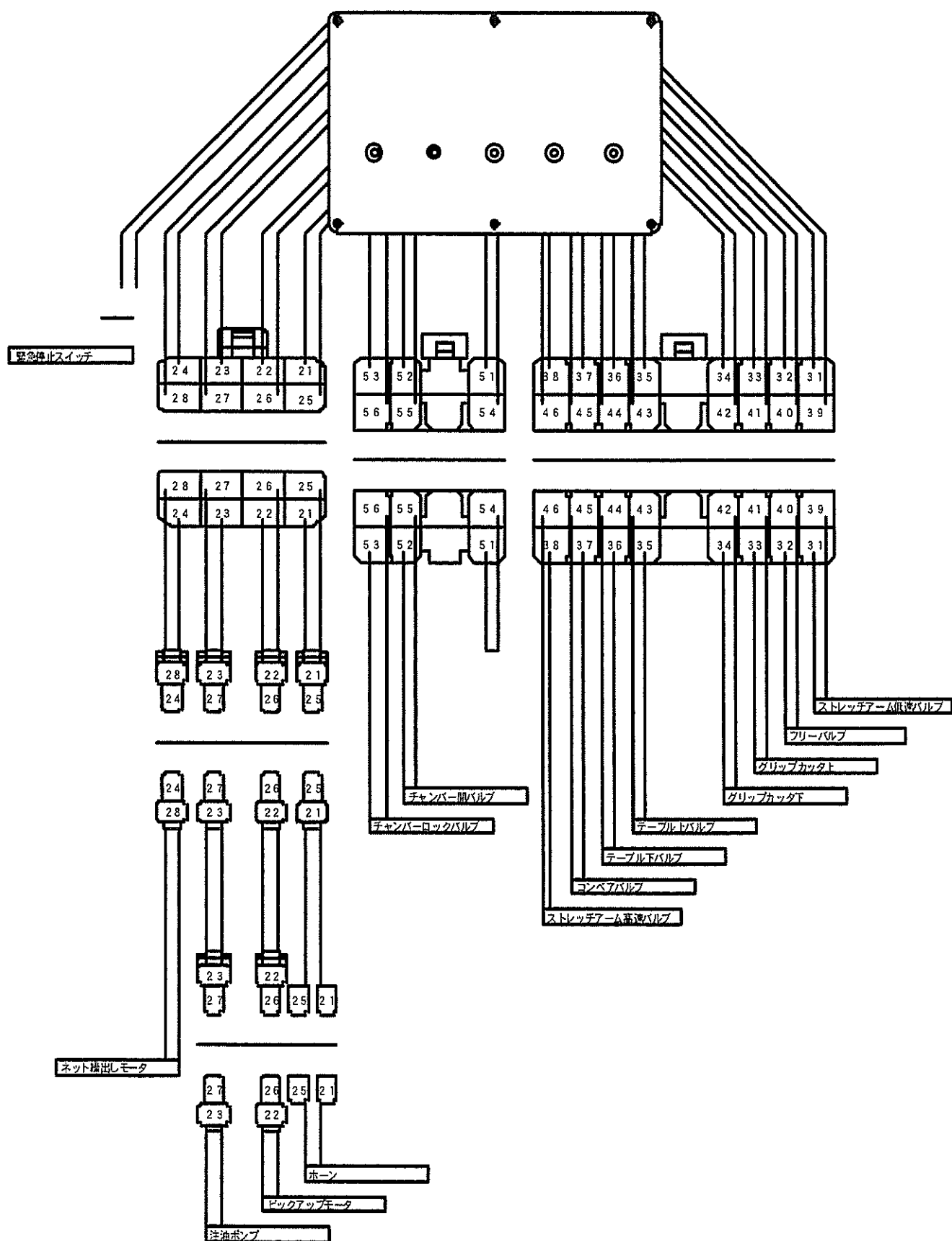


・テールランプ部分



付 表

・ 出力部分



付 表

・入力部分

